

宇都宮の

馬給



大正 宇都宮市教育委員
高橋 長 堀木 多摩島 江野澤 川 谷 塚 沼 田 水
香 石 大 野 入 小 加 司 明 實 川 野 野 川 谷 塚 沼 田 水
大正 宇都宮市教育委員

宇都宮市教育委員

表紙

開墾図繪馬

稲荷神社 (砂田町)

文化財シリーズ第9号

宇都宮の

絵馬

宇都宮市内の間引き絵馬



間引き図 観音堂（茂原町）
天保14（1843）



間引き図(部分) 稲荷神社
（兵庫塚町）
文政9（1826）



間引き図 宝勝寺（小幡1丁目）



同左部分



同左部分

菊地愛山の描いた絵馬



神楽奉納図 平出神社（平出町）
明治12（1879）

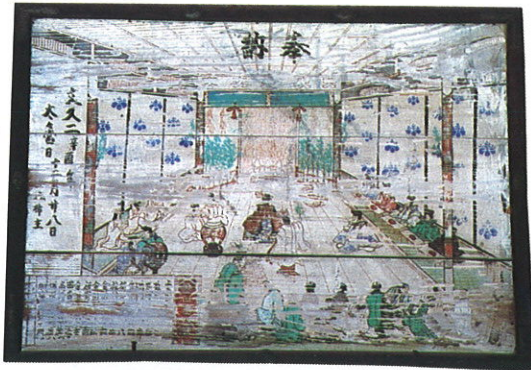


岩戸神楽図 琴平神社（清住1丁目）
明治16（1883）

江戸時代に奉納された絵馬



力士土俵入り図 太子堂（下平出町） 天保5（1834）



神楽奉納図 高麗神社（上桑島町）
文久2（1862）



母子拝み図 羽下薬師堂（下荒針町）
文久2（1862）

いろいろな絵馬



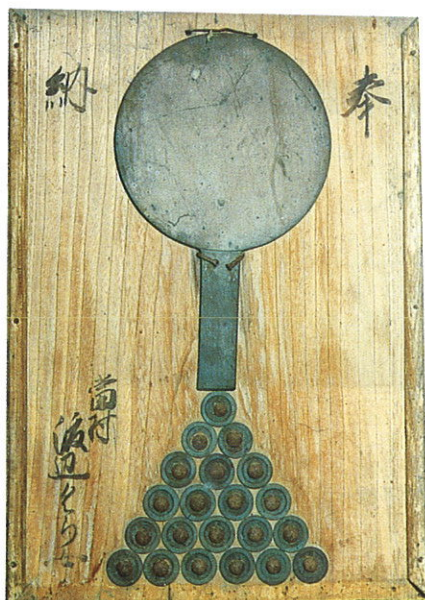
小絵馬・鶏図 薬師堂（鶴田町）



小絵馬・虎図 薬師堂（鶴田町）



梅花美人図 二荒山神社（馬場通り1丁目）
昭和4（1929）



柄鏡・古銭貼付 太子堂（下平出町）



石製双天狗図 神明宮（徳次郎町）
明治23（1890）

序 文

文化財シリーズも号を重ねてまいりまして、今回で第9号を迎えることになりました。第9号は宇都宮市内にある「絵馬」を調査し、それをまとめた「宇都宮の絵馬」です。

現在は科学・技術・医学など、さまざまな分野にわたって急速に進歩しつつあります。にもかかわらずわたしたちの心の奥底には、消すことのできない不安や恐れがあります。ですから、昔の人たちの気持ちは推しはかって余りあるといえましょう。現在わたしたちが考えるよりも頻繁に、昔の人たちは神社や寺院などにお参りし、心の中にある願いを神仏に託したり、感謝の心をささげていたと思われまふ。その現れのひとつが「絵馬の奉納」です。故に神社や寺院などに奉納された絵馬の一枚一枚に「庶民の願いや感謝の心」が込められています。本冊子によりそれらの一端にでも触れていただければ幸いに思ひます。

また絵馬には、願いや感謝の心ばかりではなく、自分の描いた作品を多くの人々に見てもらおう、という事から奉納したものも多くあります。このようなものは大絵馬に多く、芸術的にみても素晴らしいものがあります。

身近かなところにある神社や寺院、お堂にある絵馬は、当時の信仰や生活を知るうえで欠かすことのできない文化財であり、それを守っていかう、という心を培う一助となる事を心より期待いたします。

最後になりましたが、今回の調査および本冊子の刊行にあたり、誠意をもって調査・御協力いただきました文化財調査員の方々、また忙しい折にもかかわらず調査に御協力くださいました神社・寺院をはじめとする多くの関係各位に心より感謝の意を表します。

昭和62年6月

宇都宮市教育委員会

教育長 後 藤 一 雄

目次

序文	
まえがき	1
I 『宇都宮の絵馬』調査要領	2
II 宇都宮の絵馬	
1 小絵馬に込められている願いや感謝	4
① 馬	4
② 鶏	5
③ 虎	5
④ 狐	6
⑤ め・向いめ・眼	7
⑥ 宝剣	8
⑦ 立雛	8
⑧ 向い天狗	8
⑨ 地藏	9
⑩ 鳥居	9
⑪ 御神酒徳利	10
⑫ 重ね餅	11
2 大絵馬のいろいろ	12
① 神仏への祈りを込めて	12
② 神々への奉納	19
③ 動物の姿に願いを託して	22
④ 悪業への戒め	26
⑤ 豊穰と仕事の成功を祈って	30
⑥ 戦争から帰れて	32
⑦ 故事・来歴を絵にあらわして	32
⑧ その他の絵	40
3 和歌・俳句・川柳の奉納	42
① 三十六歌仙図	42
② 俳句額	43
③ 川柳額	44
4 板を彫って	44
5 板に貼り付けて	46
① 古銭貼り付け	46
② 鉄製・ブリキ製宝剣貼り付け	47
③ 柄鏡貼り付け	47
④ 天狗面貼り付け	48
⑤ 針金貼り付け	48
6 木以外の材料で	49
① 瓦	49
② 石	49
③ 鉄	50
④ ブリキ	50
III 「宇都宮の絵馬」資料	
1 地区別絵馬一覧	51
2 年代別絵馬一覧	72
あとがき	78

まえがき

本冊子は、昭和59年に宇都宮市教育委員会が、市文化財保護審議委員会の答申を受け、市文化財調査員活動の一環として実施した「絵馬調査(課題別文化財一斉調査)」の結果をもとにまとめたものです。

同調査は、市内全域を対象として実施した結果83件の報告がありました。本冊子ではこれに事務局(市教育委員会社会教育課)の職員が調査したものも加えて掲載いたしました。

調査員によって報告された絵馬や、事務局で調査した絵馬につきましては、巻末に一覧表として掲げておきましたのでご活用願えれば幸いです。

なおこの「絵馬調査」は、以下の組織で調査をしましたが、栃木県立博物館の尾島利雄氏、柏村祐司氏、および神社・寺院をはじめとする多くの方々のご協力を仰ぎました。

・宇都宮市文化財保護審議委員会委員

雨宮 義人(委員長)	岩崎 良能(副委員長)	阿久津 浩(委員)
小堀 時藏(委員) ^{60.9} _{退任}	戸田 博亘(委員)	富 祐次(委員)
埴 静夫(委員)	森谷 憲(委員)	谷田部 康幸(委員) ^{61.9} _{退任}
大金 宣亮(委員) ^{61.10} _{新任}	橋本 澄朗(委員) ^{61.10} _{新任}	渡辺 安友(委員) ^{61.10} _{新任}

・宇都宮市文化財調査員

黒川 孝三(一条)	塚田 宗雄(陽北)	酒井 光一(旭)
内藤 二郎(陽南)	石川 秀男(陽西)	高藤 常松(星が丘)
松本文一郎(陽東)	平塚 良雄(泉が丘)	桑川 弘明(宮の原)
菊地 正仁(平石)	田中 親明(清原) ^{61.9} _{退任}	増 沢 藤四郎(横川)
坂寄 悦男(瑞穂野)	小林 哲夫(豊郷)	小塚 博(国本)
高山 伝治(城山)	福田 操(富屋)	阿久津 義正(篠井)
松本 笑悦(姿川)	小島 豪市郎(雀宮)	直井 学(清原) ^{61.10} _{新任}

() 内は調査員の担当地区

・宇都宮市教育委員会社会教育課職員

加藤 悦男(社会教育課長) ^{62.3} _{退任}	塚田 隆一(社会教育課長)	石川 治男(社会教育課長補佐) ^{62.3} _{異動}
河越 昌司(社会教育課長補佐)	小林 錦一(文化振興係長)	定岡 明義(文化振興係)
手塚 英男(文化振興係)	梁木 誠(文化振興係)	小松 俊雄(文化振興係)
赤石 澤 亮(文化振興係)	大塚 雅之(文化振興係)	神野 安伸(文化振興係)
山口 伊津子(文化振興係嘱託)	間 彦 克子(文化振興係嘱託)	印=企画編集(◎=主任)

I 『宇都宮の絵馬』 調査要領

本冊子は、宇都宮市文化財調査員活動の一環として実施した、「昭和159年度課題別文化財一斉調査」のテーマ『宇都宮の絵馬』の結果をまとめたもので、調査要領は以下のとおりです。

1 目的

昔の人たちはより純粋な心で神仏に祈りをささげてきました。その一つのあらわれが絵馬の奉納です。しかし社会情勢の変化に伴ない、自分たちの手で作った絵馬を神社や寺院などに奉納しなくなったのと同時に、神社や寺院などに掲げてある絵馬に関心を払わなくなってきました。そのため多くの絵馬が捨てられたり燃やされたりしてしまいました。

また、奉納年代が古いものの中には、長年の風雨にさらされているうちに絵馬の絵がよく見えなくなったり、破損しているものも多くあります。

そこで市内全域にわたって絵馬調査を実施し、どこの神社や寺院に、どれだけの、どのような絵馬があるのか、などの点を調べてみました。

2 調査対象（ここでいう絵馬とは）

現在、絵馬に関する多くの文献が出ていますが、「絵馬とはこういうものである」という定義づけはあまり明らかにされていません。

そこで今回の調査では、以下の基準から絵馬をとらえてみました。

- ① 祈願のため、または祈願が成就したお礼として、神社や寺院などに奉納した板絵やそれに類するもの。（鉄製、石製、紙製、瓦製などのものや、古鏝、針金などの貼り付け）
- ② 警告や戒めの意味を含んでいるもので、神社や寺院などに奉納した板絵やそれに類するもの。
- ③ 美術的（絵画）な価値が認められる掲額やそれに類するもの。

以上の点をふまえて、以下のようなものは今回の調査では対象から除きました。

- ① 社号類（神社や寺院などの名称を書いた額）や文字のみの掲額。
- ② 神社や寺院の歴史を書いたもの。
- ③ 新築記念や改装記念等の寄付者名額。
- ④ 有名な神社や寺院などを参拝した時の記念として奉納された文字のみの掲額。
- ⑤ 写真等の額。
- ⑥ 合格祈願などのために、神社や寺院で頒布している、印刷の絵や焼印などがある小さな絵馬。
- ⑦ 破損の程度がはなはだしいもの。

3 調査方法

(1) 調査

調査は直接神社や寺院などに行って、絵馬の実測・写真撮影を行いました。一部聞きとり調査も行いました。なお写真は現場撮影のため、撮影角度や露出等に問題のあるものもあります。

(2) まとめ

「絵馬調査票」に調査結果を記録し、写真を貼付しました。

(3) 調査地区

調査地区は宇都宮市全域で行いましたが、各調査員は原則として、担当区域内の調査を行いました。

(4) 調査結果

昭和62年3月までに調査を実施した、神社・寺院・堂宇の数は170か所になりました。うち50か所から小絵馬も含めて、約950点の絵馬が確認されました。

今回の調査は宇都宮市全域にわたって調査を行いました。すべての神社・寺院・堂宇を調査した訳ではありません。また調査を行った神社・寺院などでも、調査もれとなっている絵馬がある可能性も否めません。

なお、各地区毎の状況は次のとおりです。

地区	調査した社寺堂数	絵馬のあった社寺堂数	絵馬の数	地区	調査した社寺堂数	絵馬のあった社寺堂数	絵馬の数	地区	調査した社寺堂数	絵馬のあった社寺堂数	絵馬の数
一条	11	5	17	泉が丘	2	0	0	国本	9	4	162
陽北	6	2	2	宮の原	7	2	58	城山	11	4	88
旭	7	2	41	平石	5	3	257	富屋	16	1	16
陽南	4	1	2	清原	15	0	0	篠井	5	0	0
陽西	5	2	58	横川	12	3	15	姿川	10	4	115
星が丘	5	2	8	瑞穂野	14	3	7	雀宮	12	6	64
陽東	5	3	30	豊郷	9	3	7	合計	170	50	947

昭和59年度課題別文化財一斉調査 No. _____

絵馬調査表

昭和 年 月 日	
調査者氏名	

1. 奉納神社・堂宇名	2. 所在地 宇都宮市
3. 所有者(管理者)	7. 奉納者(含請中)名
5. 奉納年月日	
6. 保存状態 良好・普通・悪・破損	7. 規模 縦 cm. 横 cm.
8. 所在地略図	10. 形状・略図・写真等
9. 祈願内容・文字等	
11. 絵馬にまつわる伝承・俗信	

II 宇都宮の絵馬

1 小絵馬に込められている願いや感謝

本冊子では小絵馬を両の手のひらに乗るぐらいの小さな絵馬(大体25cm四方以下)と定義しました。しかしこれより大きいものでも形や内容から小絵馬と判断したものもあります。当然、現在神社や寺院で頒布しているのも小絵馬になりますが、今回の調査では除いてあります。

昔の人たちはこの小さな絵馬を自分の手で作ったり、絵も描いたりして神社や寺院などに奉納していました。材料も上質なものではありませんし、絵もそれほど上手ではありません。しかし小絵馬こそが庶民の願いや感謝の心を素直に反映させていると考えられるのです。

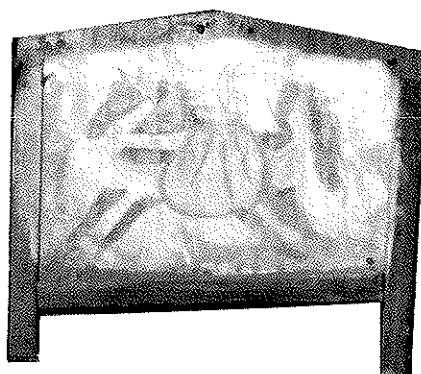
ですから小絵馬には願いや感謝に応じて、さまざまな種類の図柄があります。そのうち今回の調査で見つかったものについて、簡単な解説をしていきます。

① 馬

「絵馬」は読んで字のごとく「絵」の「馬」と書きます。馬はつい最近まで農業や運送などの仕事で重要な役割を果たしていました。それと同時に神様の乗り物として神聖視もされていました。昔黒羽町雲岩寺でみられた習俗ですが、妻が産気づいた時夫は馬の手綱を引いて村はずれまで歩いて行きます。途中で馬がいなくなるとウブガミサマ(お産の神様)が乗ったと考え急いで家にもどるといふものです。またお盆の時のナスの馬も御先祖様の乗り物として現在でも作られています。ですからはるか昔には、生きている馬を神の前に奉納していたのです。やがてそれが土の馬や木の馬に変わり、もっと簡単になり板に書いた馬の絵となっていき、これが



馬図 稲荷神社(兵庫塚町)



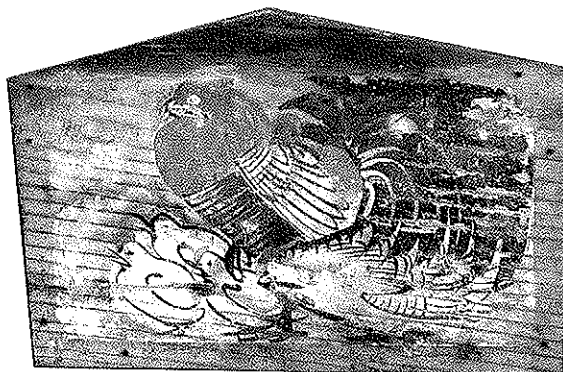
馬図 中島神社(中島町)

絵馬の発生だと一般に考えられています。現在神社や寺院などで見られる馬の絵馬は、「神様への奉納」というよりも、馬の安全を祈願したものだと思います。

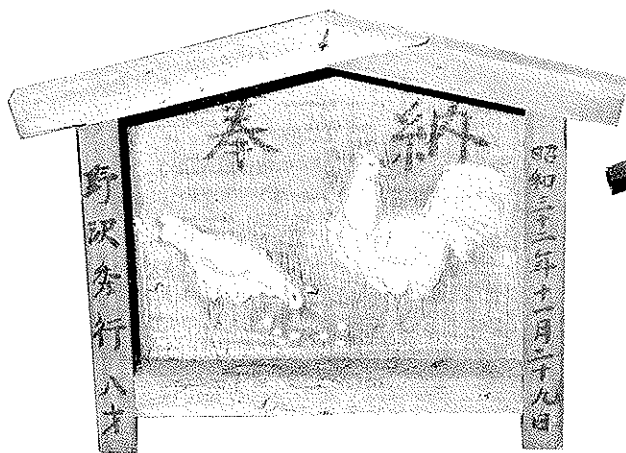
② ^{にわとり} 鶏

この絵馬は一般に、子どもの夜泣きやトリセキ(百日ゼキ)、トリ目(夜盲症)が治るように、と奉納されたものです。

峰町にある^{いばら}鶏峯神社は、トリセキに靈験があるというので、今日でも鶏の絵馬を奉納する人がいるということです。



鶏図 薬師堂(鶴田町)



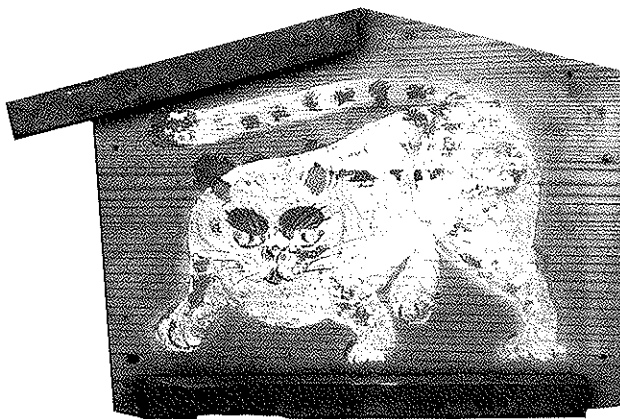
鶏図 鶏峯神社(峰町)



漢字「鳥」鶏峯神社(峰町)

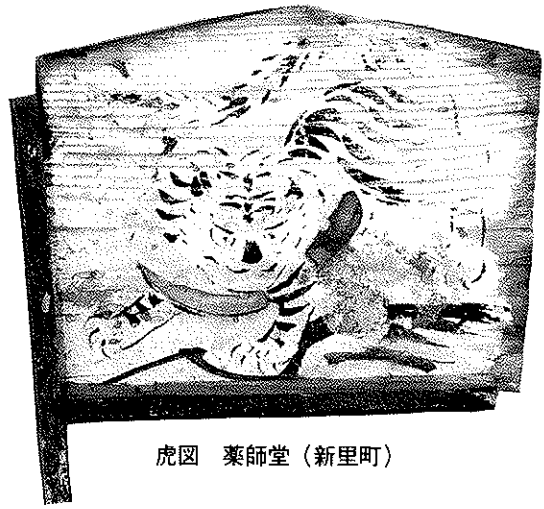
(「鳥」の文字は、鶏の絵馬を奉納したのと同じ意味です)

③ ^{とら} 虎



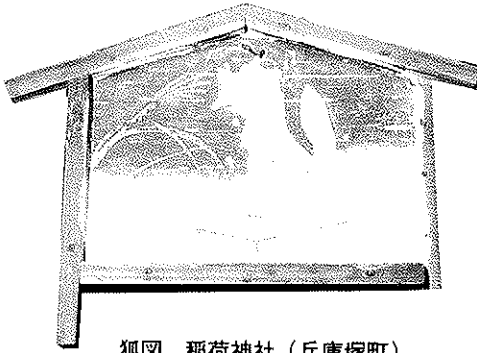
虎図 薬師堂(鶴田町)

虎はゆうもうかかん勇猛果敢な動物であることから、子どもが強くなるようにとの願いが込められているものが多いようです。また千里行って千里帰るといわれているので、戦場に行った者の無事帰還を祈ったものもあります。薬師堂に奉納されたものはトラホームが治るように（薬師様は目の神様）と奉納したのかも知れません。

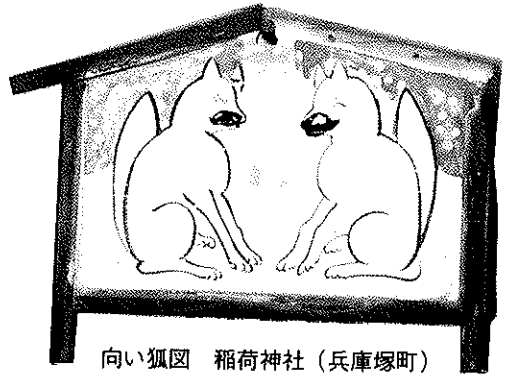


虎図 薬師堂（新里町）

④ きつね 狐



狐図 稲荷神社（兵庫塚町）

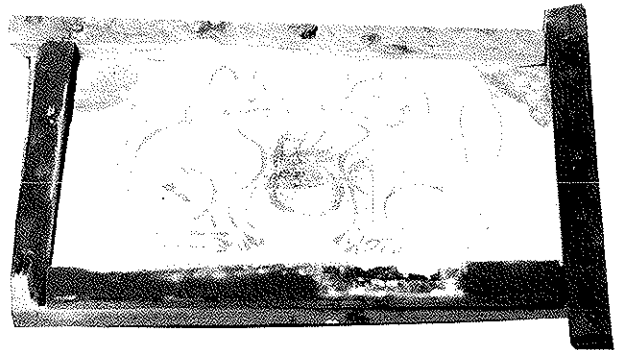


向い狐図 稲荷神社（兵庫塚町）

狐はお稲荷様の使いといわれています。ですからお稲荷様をお願いする時や願い事をかなえてくれたお礼にこの絵馬を奉納します。

二匹が向いあっている向い狐の場合は、片方がおす雄でもう片方がめす雌といわれています。これはこさす子授け祈願の時に奉納します。

また二匹の狐の間にほうじゆ宝珠が置いてあるのもやはり子授け祈願の時に用います。



向い狐図 稲荷神社（兵庫塚町）

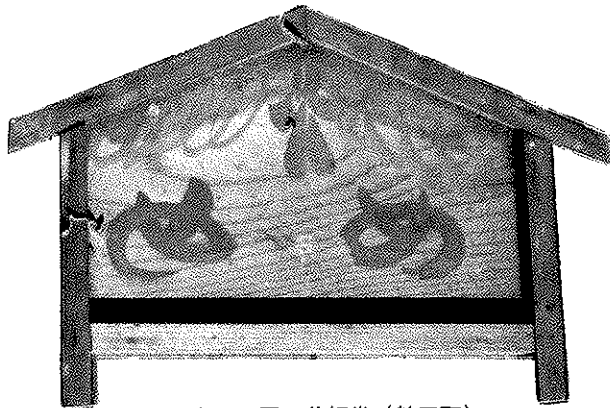
⑤ め、向いめ、^め眼

これらの絵馬は、目の病気に
かかった時に「早く治りますよ
うに」と奉納したものです。薬師
様は目の病いを治してくれる、
という信仰のため、薬師如来やくしにょらいをまつ祀っている寺
や薬師堂に多く奉納されて
います。



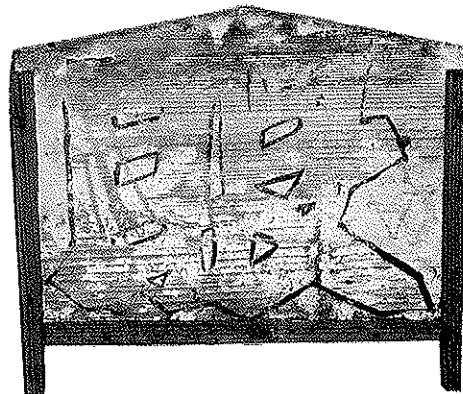
め図 薬師堂（下荒針町）

「^めめ」の絵馬は一般
に「向いめ」と呼ばれてお
り、関東地方から中部地
方にかけて多く見られま
す。



向いめ図 薬師堂（鶴田町）

「眼」の文字は「め」の
絵と同じものです。



漢字「眼」図 薬師堂（下荒針町）

⑥ 宝 剣

この絵馬の宝剣は不動明王の持っている剣をあらわします。この剣はどんな者でもひれ伏さしてしまう力を持っています。このようなところから、魔除けや子どもの無事成長を祈る時に用います。また長寿の祈願に用いる時もあります。



宝剣図 太子堂（下平出町）

⑦ 立 雛

現在でもひな祭りの日にはひな人形を飾りますが、これはもともと紙や板、藁などで人形を作り、自分についていた汚れや災いを人形につけて川に流していたのです。

立雛の絵馬も同様で、自分の体の悪いところが治るようにと奉納します。特に婦人病に効くといわれています。



立雛図 太子堂（下平出町）

⑧ 向い天狗

天狗は鼻が高く修験者の姿をしている妖怪ですが、もとは神の一種であったと考えられていました。怪力で自由に姿を消すなどのさまざまな術を使うところから、この絵馬はどんな願い事でもかなえてくれるといわれています。

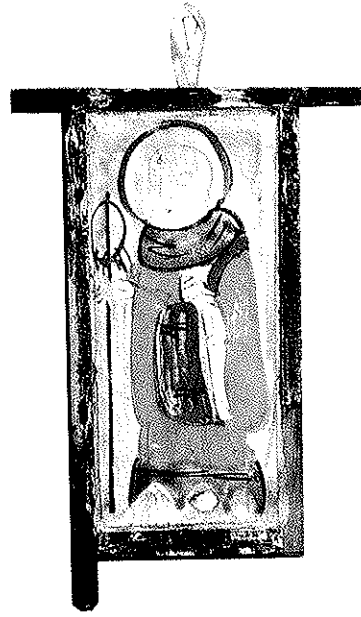


向い天狗図 太子堂（下平出町）

⑨ 地藏じぞう

お地藏さんは子どもを守ってくれる仏様です。ですから、子どもの夜泣き、寝小便、迷子、猫の虫、安産など、子どもに関するさまざまな祈願に用います。

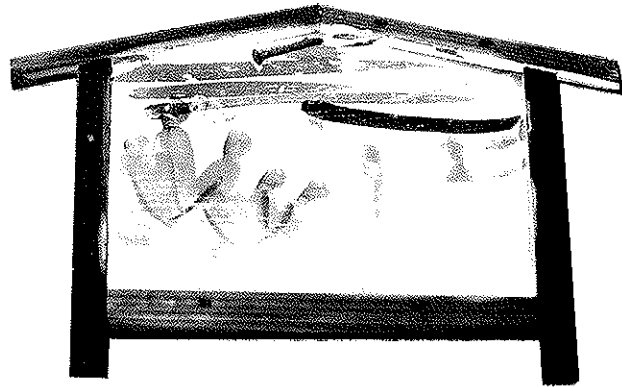
ふつう小絵馬は、横長で上が山型をしています。が、地藏の小絵馬は、縦長で上は平らになっています。



地藏図 延命院（泉町）

⑩ 鳥居とりい

鳥居は神社の入口に建っており、神聖な場所とわたしたちが生活している場との境をあらわしています。稲荷様に何かお願いし、それがかなった時には、ふつう朱ぬりの鳥居を奉納するので、この絵馬もお礼として奉納したと考えられます。また、この絵馬があったのは、安産祈願として有名な兵庫塚町の稲荷神社だけであり、この絵馬のすべてに“松”の絵が描かれているので、“子どもが授かるのを待つ”という意味で奉納したのかもしれませんが。



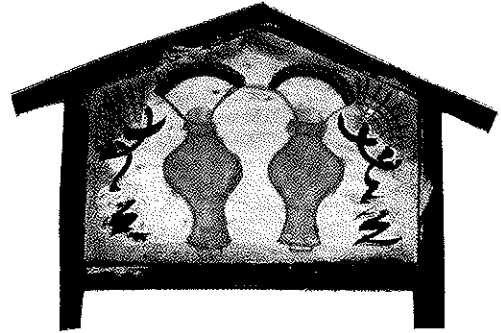
鳥居図 稲荷神社（兵庫塚町）

⑪ ^{おみきとつくり}御神酒徳利

酒は神様に供えるもので、昔の人は一般に酒を飲むことによって神様と同一になれる、とも考えていました。現在でもお祭りになると多くの酒が奉納されており、その酒を飲みながらお祭が進んでいきます。

さて、神様に願い事をしたいが、酒を持っていくのは大変なので、絵に書いたお酒、つまり御神酒徳利の絵馬を奉納するようになったと考えられます。

宝木本町にある薬師堂の小絵馬(右)には「ゆめ」の向いめが書かれています。これは目の病いが治るよにという願いを込めて奉納したものです。



御神酒徳利図 塩釜稻荷神社 (南一の沢町)



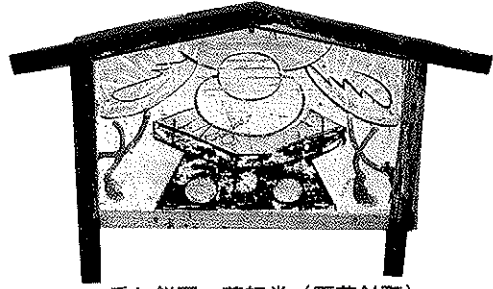
御神酒徳利図 薬師堂 (宝木本町)



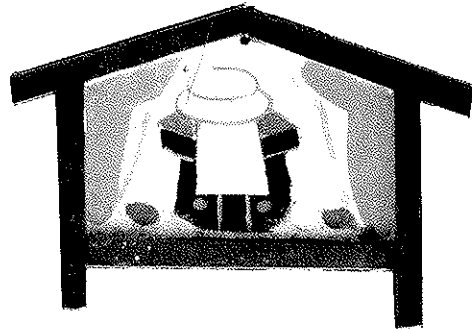
御神酒徳利図 薬師堂 (新里町)

⑫ 重ね餅 かさもち

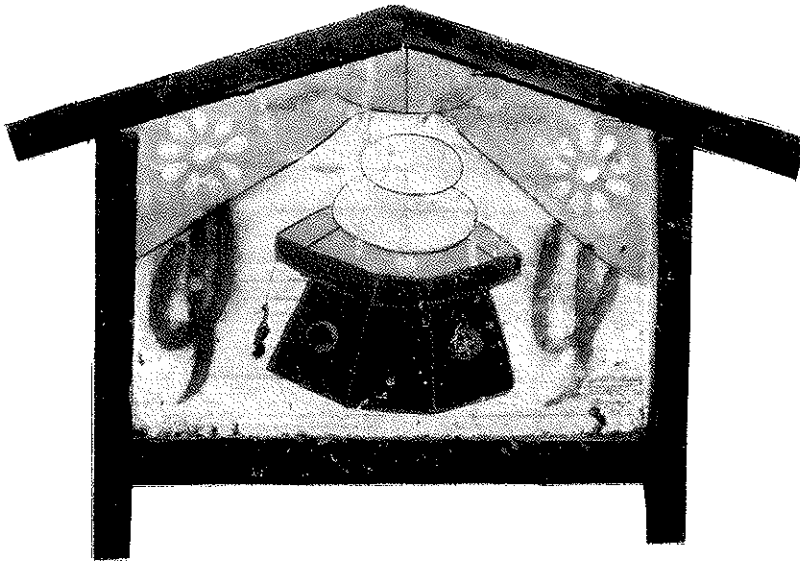
最近ではパック入りの餅が販売されているため、一年中餅を食べることができますが、少し前までは、正月や節供、祝い事などの時にだけ作って食べたものでした。この餅の中には、何か特別な力が宿っていると考えられていました。例えば、子どもが一才の誕生日には一升餅を背負わせますし、結婚式で嫁入りの後すぐにボタ餅を食べたものです。これらは餅の中には力が宿っており、食べた人にも力が付く、と考えていたのです。このような事から餅は御神酒と共に代表的な供物となっています。餅を供えれば神様は喜び、何でも願い事をかなえてくれる、と人々が思うようになったのも無理はありません。今回の調査でも重ね餅の絵馬が一番数多く見つかっているのは、餅に対する信仰の心があったためでしょう。



重ね餅図 薬師堂（下荒針町）



重ね餅図 塩釜稲荷神社（南一の沢町）



重ね餅図 薬師堂（下荒針町）

2 大絵馬のいろいろ

大絵馬には、小絵馬と同じように、信仰の心が込められているものもありますが、事業の記念や記録として奉納したものや、多くの人々に絵を見もらうために奉納したものなどもあります。昔は美術館やギャラリーホールのようなものはなかったので、人々が多く集まる神社の^{はいでん}拜殿や^{えまでん}絵馬殿がそれらの役割を果たしていたのです。ですから大絵馬には絵を描いた人の名前が書かれているものが多く見受けられますし、その中には有名な画家のものもあります。絵自体も小絵馬よりはるかに手が込んでおり、美術的に見てもすばらしいものも多くありました。

そこでこの章では、絵の内容によって絵馬を分類し、それぞれに簡単な説明をしていきます。

① 神仏への祈りを込めて

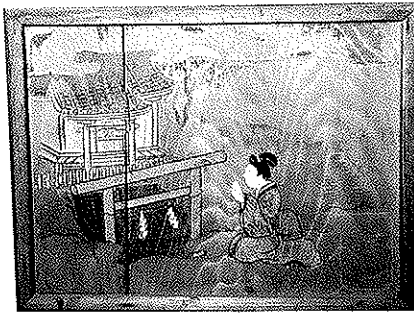
ア 拝み図

拝み図には、男の人が一人で祈願しているもの、女の人が一人のもの、夫婦・親子・家族など、色々な種類があります。これらの絵を見ると誰が奉納したのか、という点は分かるのですが、何を祈願したのかは良く分かりません。しかし全体の構図や建物・樹木・幕などの背景が^{はんえ}判じ絵(絵とき)になっているものもあるようなのですが、読み取るのは大変に難しいと言わざるを得ません。

またこの拝み図は、ふつう左側に拜殿があり、体をななめ左に向けて祈っている人がいる図になっていますが、右側に拜殿のある左右が逆の図も何枚かありました。



親子拝み図 羽下薬師堂(下荒針町)
文久2(1862)



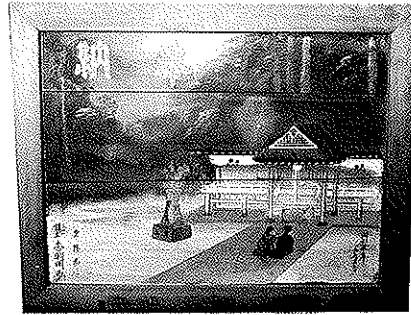
女拝み図 琴平神社（清住1丁目）



夫婦拝み図 雀宮神社（雀の宮1丁目）



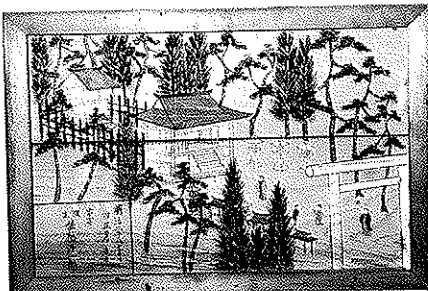
父子拝み図 平出神社（平出町）



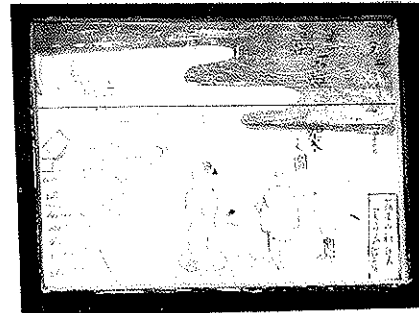
母子拝み図 菅原神社（さるやま町）
昭和3（1928）

イ 参詣図

参詣図も拝み図同様、絵の中の人物が祈願者だと思われませんが、祈願の内容まで読み取るのは難しいです。なお羽下薬師堂の参詣図は、江戸時代（文久2 1862年）に山城国（京都府）の人が奉納したもので、数少ない県外奉納者の絵馬の一枚となっています。



参詣図 高籠神社（岩曾町）
明治28（1895）



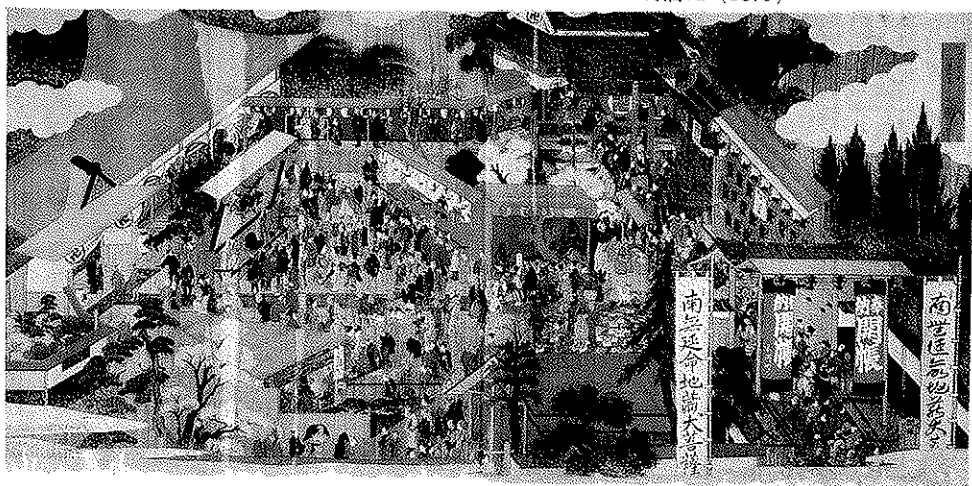
参詣図 羽下薬師堂（下荒針町）
文久2（1862）

ウ 神社・寺院の境内図

この絵馬は、神社や寺院にお参りした時や何かをお願いする時に奉納したと考えられます。絵馬を奉納した当時の神社や寺院の様子を知ることができます。



神社境内図 平出神社（平出町）
明治12（1879）



延命地藏尊縁日図 延命院（泉町） 菊地愛山筆 市指定有形文化財
元治元（1864）

エ 神の姿や仏の姿

- ・ 大工三神



大工三神図 二荒山神社（馬場通り1丁目）
大正5（1916）

この絵馬に描かれている三人の神様は、それぞれさしがね、すみつぼ、たけふでといった大工仕事にとって大切な道具を持っています。建築中の安全と無事完成を祈って奉納したものだと思います。



大工三神図部分 二荒山神社（馬場通り1丁目）

・ 雷神と風神

それぞれ、雷除け・あらし除けのため、つまり雷やあらしによって農作物の成長が阻害されない事を祈ったもので、一方雷神は雨をもたらすということでありがたい神様、と考えるときもあります。



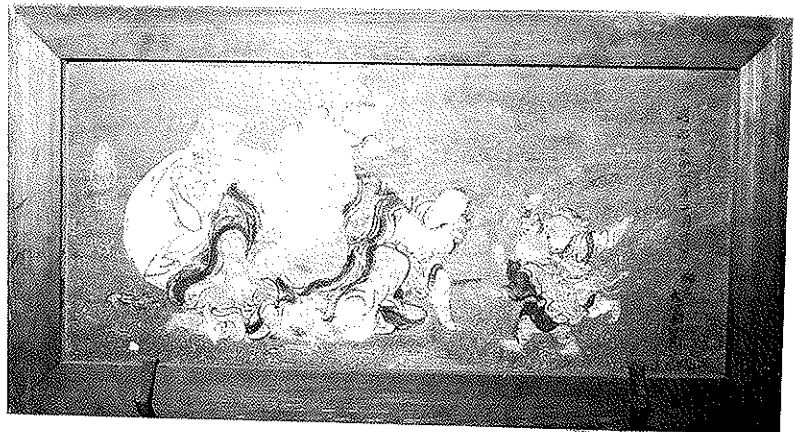
雷神図 平出神社（平出町）
昭和7（1932）



風神図 持室院（田下町）
昭和14（1939）

- 布袋

布袋は七福神の一人として良く知られています。中国後梁時代の僧で、大きなおなかを出したままの姿で、常に円満なほほえみをたたえているところから福の神として信仰されています。



布袋図 稲荷神社 (砂田町)
明治31 (1898)

- 不動三尊



不動三尊図 持宝院 (田下町)
昭和2 (1927)

- 楊柳観音



楊柳観音図 観音堂 (茂原町)

この二枚の絵馬は、どちらも紙に書いた絵を板に貼ったものです。不動三尊とは、中央の不動明王、右の矜羯羅童子、左の制吒迦童子をさします。楊柳観音は薬王観音ともよばれ、病気の苦しみをとりぞいてくれる、といわれています。

• 弁財天



弁財天図 岩原神社（岩原町）
大正13（1924）

弁財天はもともとインドにおける河を^{つかさど}司る女神でした。わが国では七福神の一人として、特に福を授けてくれる神様として今日も厚い信仰を受けています。

• 金剛力士

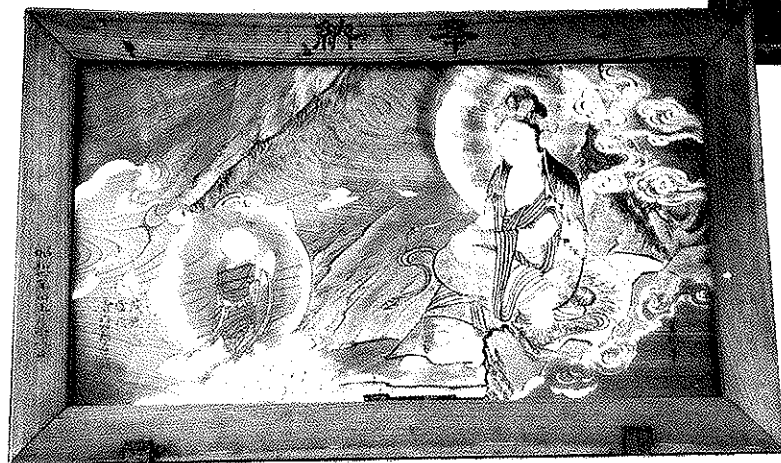
金剛力士は何でも破壊することのできる^{こんこうしよ}金剛杵を手に持っています。一般に^{むびょうそくさい}無病息災を祈ります。

• 悲母観音

悲母観音は、母親の持つ^{じよ}慈悲深さを観音様の姿であらわしたものです。子どもの祈願のために奉納したと考えられます。



金剛力士図
観音堂（茂原町）
大正11（1922）



悲母観音図 観音堂（茂原町）
昭和4（1929）

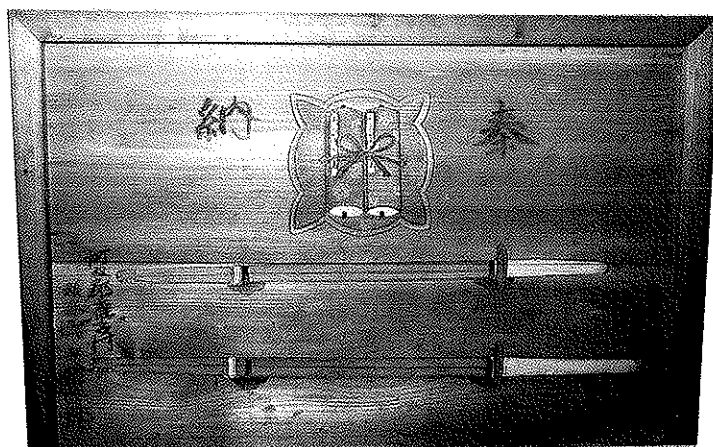
オ 習い事の上達を願って

- 横笛



横笛上達祈願図 星宮神社 (上欠町)
明治22 (1889)

- 剣道



竹刀・卷子図 熊野神社 (針ヶ谷町)

- 裁縫

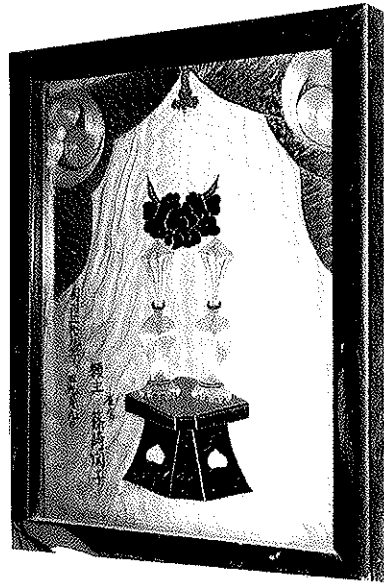
この絵馬は裁縫を習っていた生徒たちが、技術の上達を願って奉納したものです。布の押し絵になっていますが、表面のガラスが破損してしまっただけ一部なくなっている部分もあります。



縫・袴図 稻荷神社 (兵庫塚町)
大正2 (1913)

- ししゅう

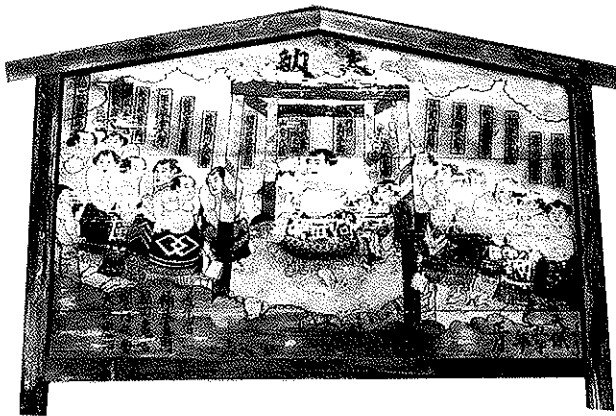
この幣束・御神酒徳利図はすべてししゅうでできています。「もっと上手になるように」という願いが込められていると思うのですが、出来ばえが大変に見事な点を考えると「これほどまでに上手になりました」というお礼に奉納したとも考えられます。



幣束・御神酒徳利図 雀宮神社（雀の宮1丁目）
明治39（1906）

② 神々への奉納

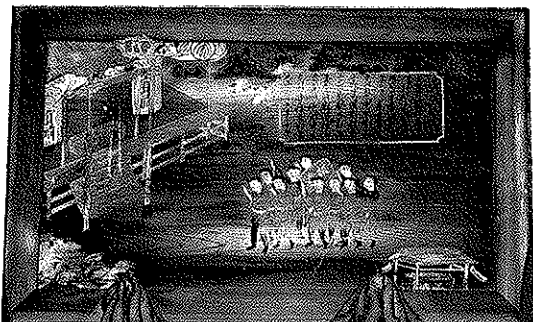
- 相撲



力士土俵入り図 太子堂（下平出町）
天保5（1834）

昔わが国では、相撲や綱引きなどの力くらべは、農作物の収穫を占う重要な神事でした。どちらが勝つのかによって、稲の早播き・晩播きを決めたり、どのような農作物が豊作になるのかを占ったりしました。宇都宮市内でも境内に土俵のある神社を多くみかけるので、相撲の占いを行ったのかもしれませんが。現在神社境内で行なわれる相撲は神事というより、子どものレクリエーション的な色が強いようです。

- 絵馬の奉納



おけしよくにん
桶職人 絵馬奉納図 太子堂（下平出町）
大正5（1916）

- ようきよく そうがく
謡曲の奏楽



謡曲奏楽図 宝国神社（宝木本町）
大正6（1917）

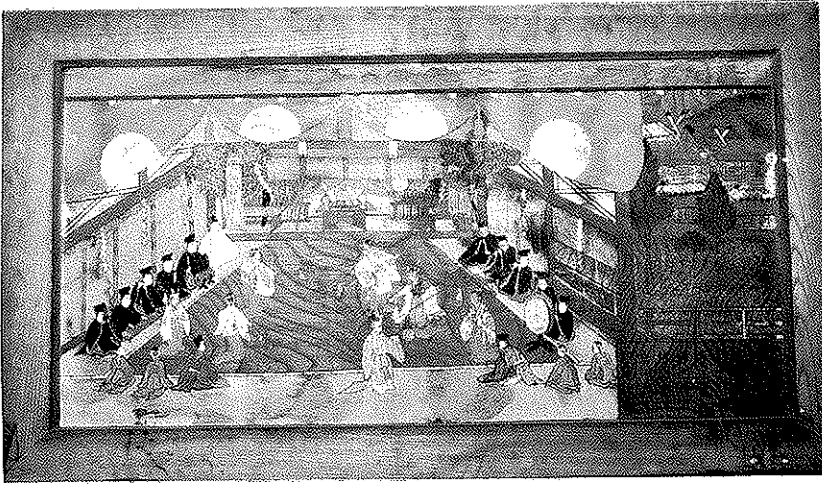
- かぐら
神楽

神楽とは、神聖な場所に神様をお迎えし、その前でさまざまな芸能を行うものをいいます。宇都宮市に伝わっているのは、岩戸神楽や太々神楽と呼ばれているもので、お面をつけた踊り手がいろいろな舞を舞います。昔は多くの神社で神楽が奉納されていましたが、現在では二荒山神社（馬場通り1丁目）、八坂神社（今泉4丁目）、平野神社（瓦谷町）などに残っているだけになってしまいました。

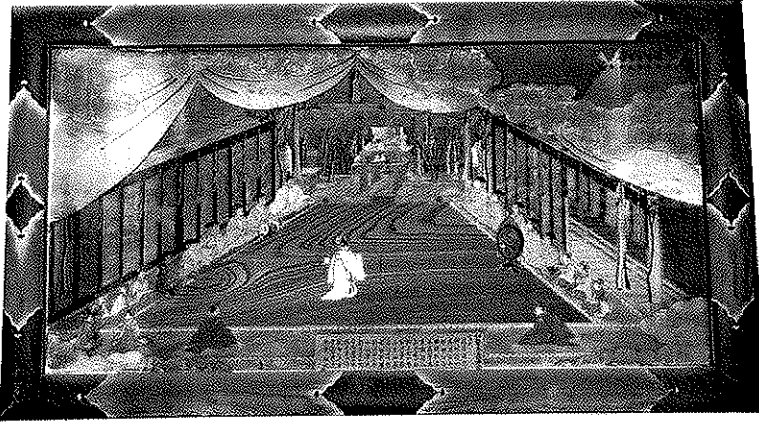
神楽の絵馬は、神楽を奉納した記念に奉納するものや、神楽を奉納したいのだけれどもできない場合などに奉納されます。



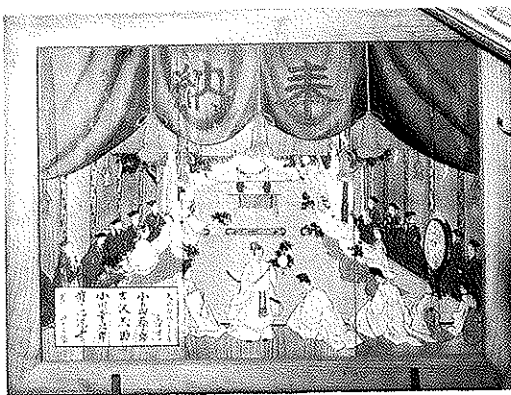
神楽（天の岩戸の舞）奉納図 琴平神社（清住1丁目）菊地愛山筆
明治16（1883）



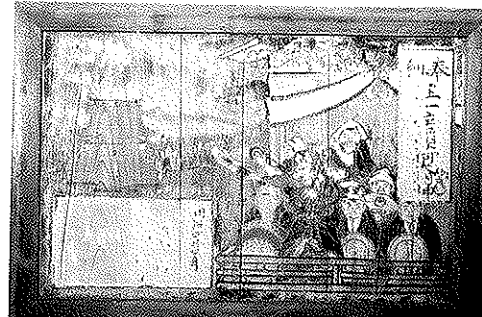
神楽奉納図 高麗神社（竹林町） 菊地愛山筆
明治26（1893）



神楽奉納図 平出神社（平出町） 菊地愛山筆
明治12（1879）



神楽奉納図 高麗神社（石井町）
大正13（1924）



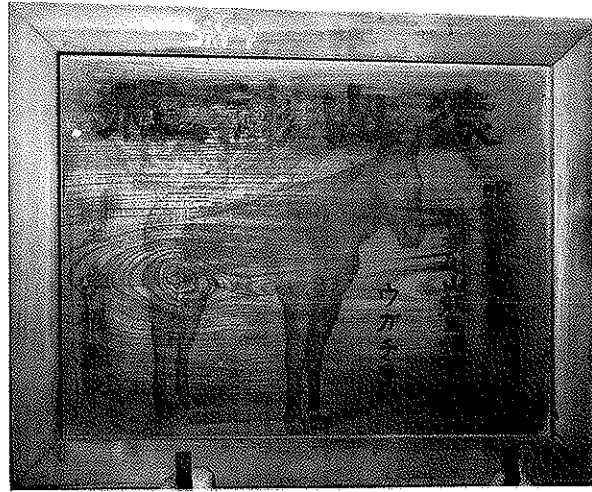
神楽（^{びやっこ}白狐の舞）奉納図 稲荷神社（砂田町）
明治44（1911）

③ 動物の姿に願いを託して

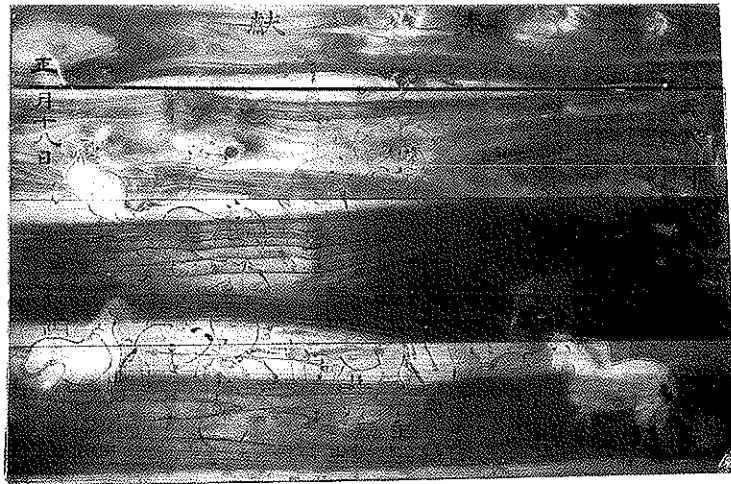
- 馬



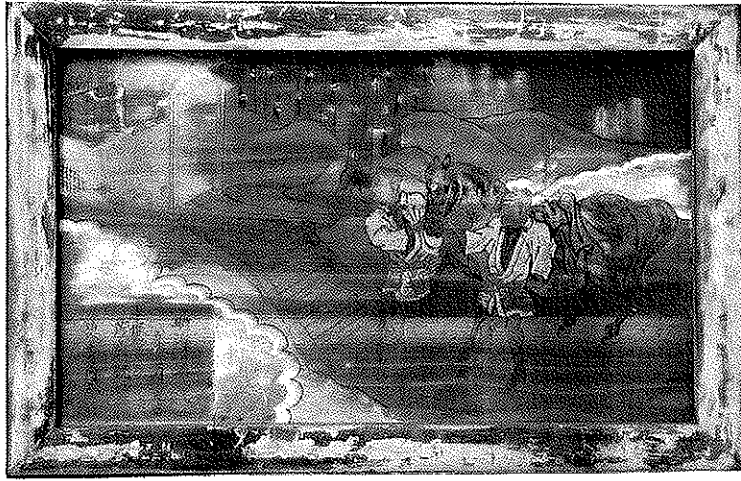
馬図 平出神社（平出町）
昭和18（1943）



馬図 猿山神社（下栗町）
昭和11（1936）

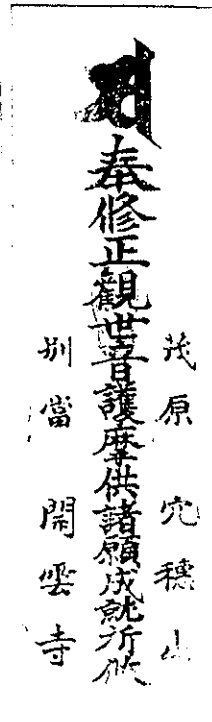
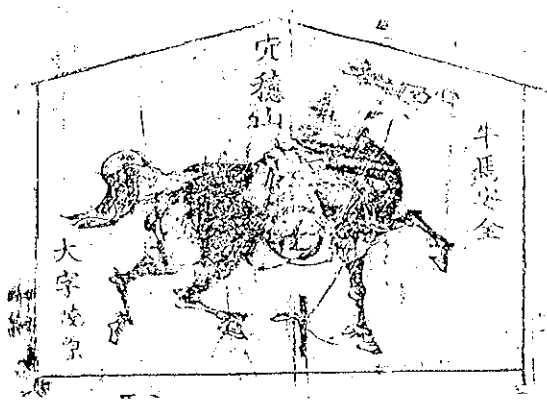


群馬図 観音堂（茂原町）
大正2（1913）



馬参詣図 観音堂 (茂原町)
明治15 (1882)

茂原町にある観音堂(通称・茂原観音)は、馬の安全を守ってくれたり、人の安産を司る
 というので、現在でも厚い信仰を集めています。縁日となっている1月18日には、露店も並
 び多くの参詣者でにぎわいます。またこの時馬の安全のお札も頒布され、昔は農家の人々が、
 今は競馬関係の人々が受けていくそうです。



茂原町の観音堂で頒布されている、牛馬安全祈願のお札 (左・中・右)

• 雀すずめ

雀の絵馬にはどのような祈りが込められているのか良く分からなかったのですが、「雀百まで……」ということわざがあるので、長寿を祈願したのかもしれない。



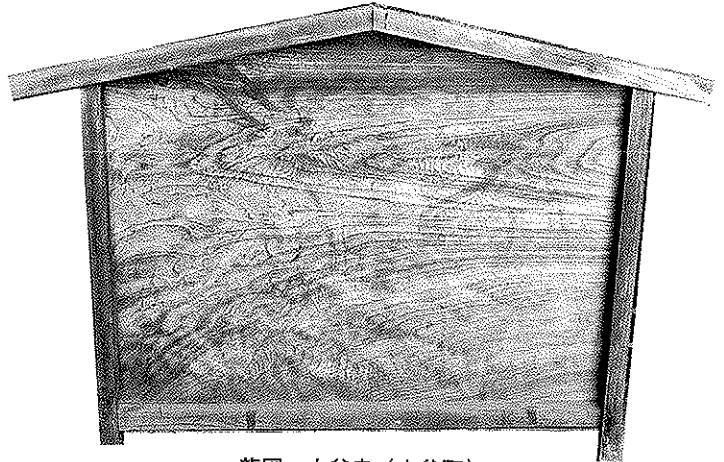
群雀図 平出神社（平出町）
ぐんじやく

• 龍りゅう



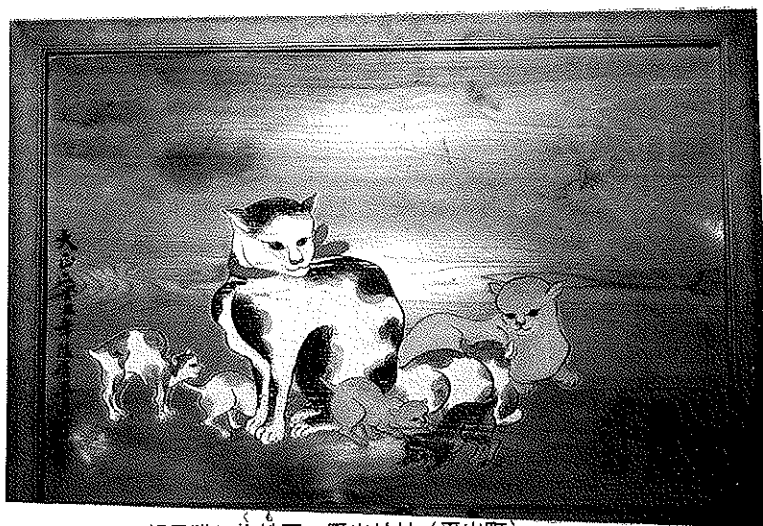
龍図 庚申神社（下平出町）
昭和155（1980）

龍は空想上の動物ですが龍宮伝説にみられるような水の神としての性格が強いです。そのため雨乞いに用いたりします。また姿が大変に力強いところから、子どもが丈夫に育つようにという祈りを込めてこの絵馬を奉納します。

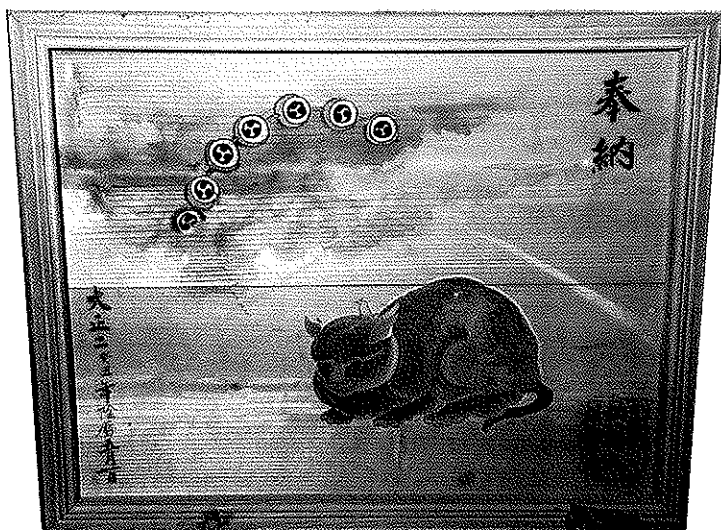


龍図 大谷寺（大谷町）
文政12（1829）

• 猫

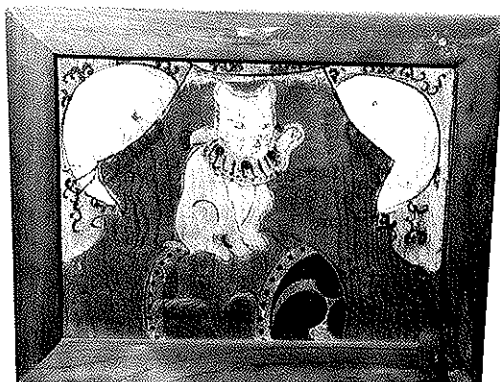


親子猫に蜘蛛図 平出神社（平出町）
大正2（1913）



猫に雷図 平出神社（平出町）
大正2（1913）

平出町にある平出神社は、雷電神社と^{いいでん}呼ばれている事からも分かります、^{かみなりよ}雷除けの信仰で有名です。この神社に猫の絵馬が多いのは、猫は雷が来るのを予知する力がある、と思われているためです。



太鼓に乗る招き猫図
平出神社（平出町）

④ 悪業への戒め（間引きの絵馬）

間引きとは、生まれたばかりの子どもを、口べらしのために殺してしまうことをいいます。江戸時代の中期以降毎年のおきるききんのため、農村が大変にまずくなり、そのため全国的に間引きが行われるようになりました。当然間引きは、幕府や藩などから厳しく禁止され、その悪業の深さを教えるために各地で絵馬が描かれたり、版本などが書かれたりしました。それをもとにして村の人たちに僧侶や名主たちが説明したのです。

栃木県内では、栃木県立博物館などの調査によって3枚の間引き絵馬が報告されていましたが、今回の調査でさらに宇都宮市内から3枚の絵馬が見つかったこととなります。

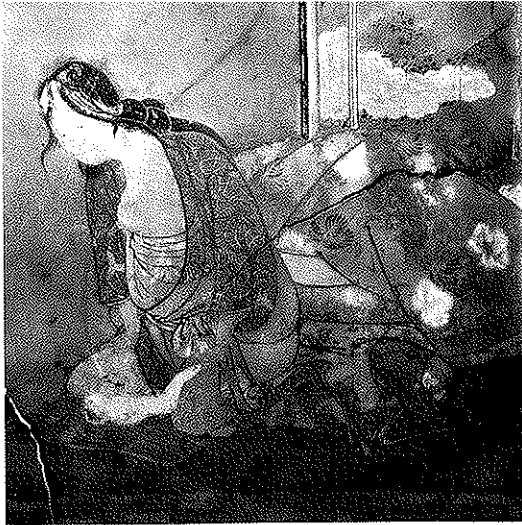


間引き図 観音堂（茂原町）

天保14（1843）



間引き図 宝勝寺 (小幡1丁目)



同上部分



同上部分



間引き図 稲荷神社 (兵庫塚町)
文政9 (1826)



同上部分

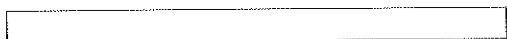


人面獣心の壁書 (部分) 黒羽町佐藤氏蔵
県指定有形民俗文化財

兵庫塚町の稲荷神社にある間引きの絵馬(文政9年、1826)は、長い間風雨に打たれたためか、絵や墨書が見えにくくなっています。右の方にある絵は、猫(?)の顔をした女の人が生まれたばかりの子どもを殺そうとしています。上の方はきつねに乗った稲荷様(?)が下をのぞいているものです。この下の部分は、県指定文化財の「人面獣心の壁書」の絵と似ています。なお墨書は以下のとおりです。

抑^{そもそも} この御神は身こもれる人々の安産^{つかさ}を司^{つかさ}とり 疱瘡^{ほうそう}麻疹^{ましん}を軽く
 なさしめたもう故に 四方の人々庭前にめかつき^{かい} 晦^{かい}なきおほん神を
 さして誓^{ちか}ひをむすひ 其母子^{まつた}の全^まきを願^{ねが}ひは 実^{まこと}に靈^{れい}験^{げん}あらたかなること
 闇^{やみ}のものに恋^こすることく 産^うのかるきて いもはしかの重^{おも}きためしをきかす
 いてやこの世にありて子をおもふは親のころにあるへきを^{わろか} 愚^{おろ}しさのよく産^うおろ
 したるみどり児を押殺^{おしころ}し または薬^{いばく}にて流^{なが}しなとする等 天性^{てんせい}をも憚^{おそ}る悪^{あく}邪^{じや}
 しまの至^{いた}り也 時に疎^あく葉^は家の住居^{ぢゆう} 薦^{こも}や筵^{ひしう}をかけまくも 天性^{てんせい}にやどりし
 子^こを努^{ゆめゆめ}々^{しよがん}處^{ちよ}分^{ぶん}するへからす 誓^{ちか}ひ子^こ芋^{いも}を欠^{けつ}捨^{しや}して親^{おや}芋^{いも}もともにそこなふ
 ことく其子^こを殺^{ころ}し 其親^{おや}の榮^{えい}ふるいわれあらし 躰^{からだ}は其親^{おや}より嗣^つくというとも
 魂^{たま}は天^{あま}の性^{せい}を舍^すすものなれば 別^{べつ}天^{てん}に背^{そむ}くも やかては繁^{はん}榮^{えい}の時^{とき}至^{いた}る
 へけんや 焼^{やけ}野^のの雉^き子^す 夜^よの霧^{きり}といふに 子^こをおもふのい、つてならめ まして
 萬^{ばん}物^{ぶつ}の靈^{れい}たる人^{ひと}の生^{なま}を損^{そん}ふは 鳥^{とり}類^{るい}にも劣^{おと}るはつかしきことならずや
 をのか子^こを巳^みか喰^くう猫^{ねこ}にひとしく その心^{こころ}のさまを画^えき いましめの便^{べん}り
 あらしめんと書^かつらね侍^{さむらい}る 此^{こゝ}のおほんかみ^{かみ}をたのむ人^{ひと}々々 耳^{みみ}目^めのおよふ
 所^{ところ}に其^{その}愁^{うれ}あらは はやくもいさめ導^{みちび}引^ひ 神^{かみ}の本^{ほん}意^いにあつかるへし
 神^{かみ}主^{ぬし}今^{いま}泉^{いづみ}正^{ただ}直^{ただ}の需^{もち}に應^{こた}して 下^{した}石^{いし}橋^{はし}の産^う 中^{なかつ}山^{やま}信^{のぶ}茂^{しげ} 謹^{つつし}而^{して}筆^{ひつ}記^き
 染^{そめ}るものなる也

迷^{まよ}ひ子^この親^{おや}のころ^{ころ}や芒^{すすき}原^{はら} 雪^{ゆき}の夜^よや不^ふ孝^{こう}もの



かや などのむかしを おもひ出て



はつ^{うま}午^まや 子^こにひかされて 打^う太^{たい}鼓^こ 三^{さん}樂^{らく}書^{しよ}

全^{かな}しく過^なし 水^{みづ}無^な月^{つき}の吟^{ぎん}

かけ出^だす 子^こよりも

暑^{あつ}し親^{おや}ころ 全^ま

干^と時^{とき} 文^{ぶん}政^{せい}丙^{へい}戌^{しゆ}年^{ねん}

二^に月^{げつ}初^{しつ}午^ま

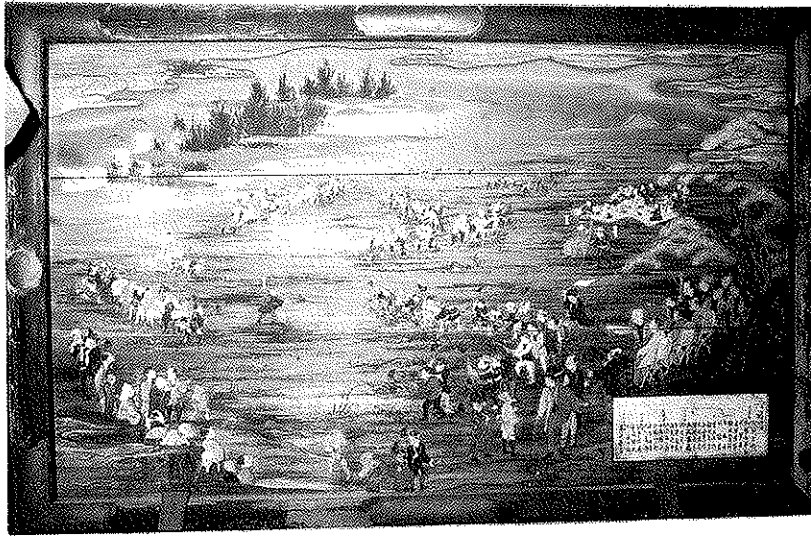
願^{ねが}主^{ぬし} 今^{いま}泉^{いづみ}元^{げん}兵^{へい}衛^ゑ

⑤ ^{ほうじょう}豊穰と仕事の成功を祈って

- 農作業



農作業図 平出神社（平出町） 明治29（1896）



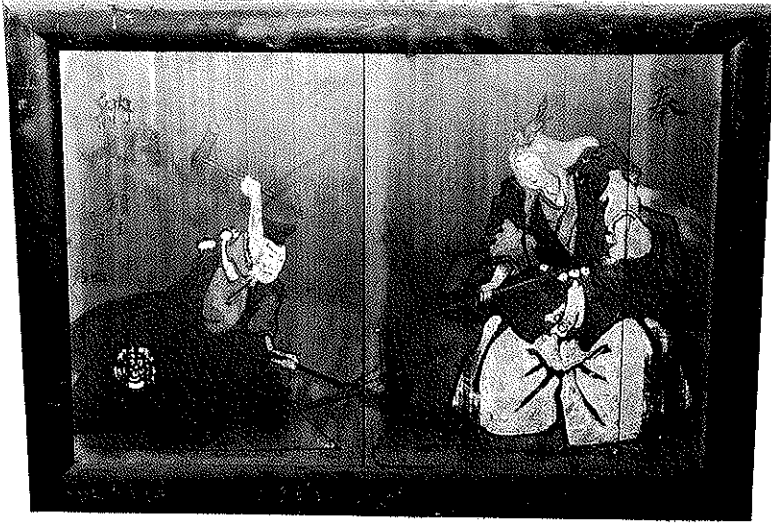
開墾図 稻荷神社（砂田町）

明治のはじめごろ、現砂田町あたりの開墾をした時、この事業を記念して奉納された絵馬です。当時の人々の服装や労働の様子などを知ることができる貴重な資料です。



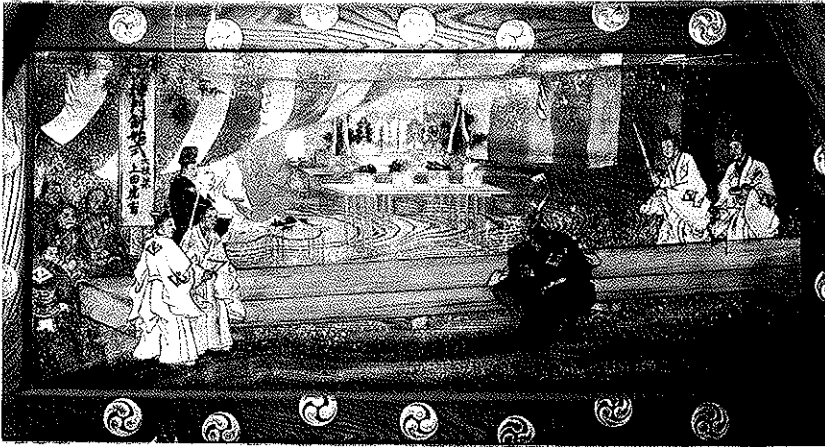
同上部分

- 刀鍛冶かたなかじ



刀鍛冶図 稲荷神社（砂田町）
明治34（1901）

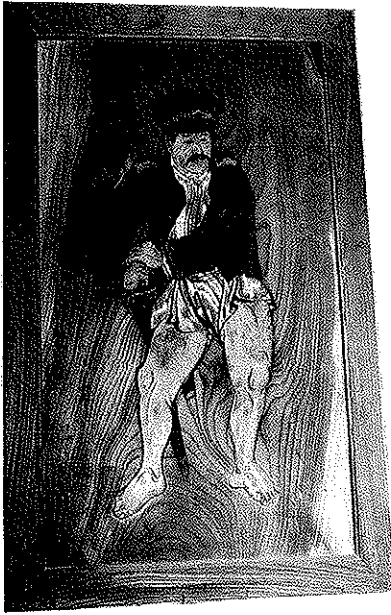
- 鉦初めちやうなほじ



鉦初め式図 二荒山神社（馬場通り1丁目）
大正8（1919）

鉦ちやうなとは、絵の中央の人物が振り上げている道具で、鍬くわのような形をした斧おのの一種です。斧おので削った後けずを平らにする時に用います。鉦初め式は、家などを建てる時に、建築中の無事と安全を祈るための儀式です。なおこの絵馬は、二荒山神社の回廊かいろうが建てられる時に奉納されたものです。

⑥ 戦争から帰れて



負傷軍人図 平出神社（平出町）
明治27（1894）



陸軍軍人図（押し絵）平出神社（平出町）
昭和16（1941）

平出神社は、^{かみなりよ}雷除けの信仰があるところから、第2次世界大戦のころまで戦いの神様として信仰されていた事もありました。上の二枚の絵馬は、戦争前に平出神社に無事に帰れるようお願いした人が、無事帰れた後にお礼として奉納したと思われます。

⑦ 故事・^{こじ}来歴を絵にあらわして

今回の調査では、歴史上の人物や物語・伝説などを絵の題材にしているものが多くみられました。

これらを描いた絵馬は、信仰の心というよりも、多くの人に自分の絵を見て欲しいと思って奉納したと考えられます。ですから絵は上手なものが多く、見て楽しむ絵馬ともいえるでしょう。

しかし中には、一体どの人物をあらわしたもののなのか、どの物語や伝説から題材をとっているのかが分からないものもありました。これらは写真のみを掲載しておくことにします。

• 那須与一 なすのよいち



那須与一扇的を射る図 高麗神社（茂原町）
昭和4（1929）

那須与一は栃木県的那須地方に住んでいたといわれる弓の名人で、石にさえ矢がささったというほどの人です。源平合戦の戦場の一つである屋島の戦いの時のことです。源氏は陸に平氏は海上の船にそれぞれ分かれて、はげしい戦いを繰り返していました。やがて戦いが一段落したとき、平氏方から一そうの船がへさきに日の丸の扇を立ててこぎ出てきました。それを射るように命じられた与一は、見事に一矢でこの的を射とめたのです。その時のようすを描いたものです。

• 牛若丸 うしわかまる

牛若丸は源義経の幼い時の名前です。義経は、五条大橋での弁慶との出会い、木曾義仲を滅したこと、一の谷の合戦、屋島の戦い、静御前との話、源頼朝の怒りに触れたため東北への敗走など、実に多くのドラマがある人物です。

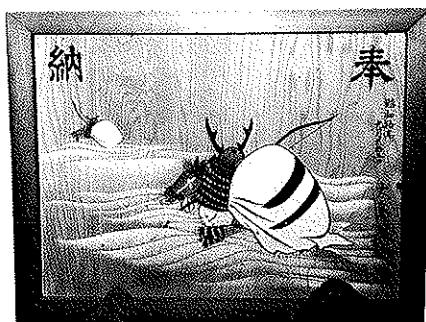
この絵馬の題は、義経の幼いころ京都の鞍馬山の天狗に兵法（戦いのしかた）を教わり、奥伝（戦いの極意を書いたもの）をもらっているところを描いたものです。



牛若丸鞍馬山の天狗に兵法を教わる図
八幡神社（針ヶ谷町）

- 直実・敦盛

元暦元(1184)年、一の谷の合戦に敗れた平氏は船に乗って海に逃げました。平敦盛は1人乗りおくれたため、馬に乗ったまま船に向う途中、源義経の部下である熊谷二郎直実が追ってきて戦いをいどみました。敦盛は引き返して戦いましたが直実に組み伏せられてしまったため観念し、自分の子どもと同じくらいの年だとあわれんでいた直実を促して自分の首をとらせたのです。この時敦盛はわずか15歳であったといえます。



直実、敦盛図 菅原神社 (台新田1丁目)
昭和10 (1935)

- 菅原道真



菅原道真図 菅原神社 (さるやま町)
明治40 (1907)



菅原道真図 菅原神社 (さるやま町)
昭和9 (1934)

菅原道真は平安時代の学者であり、政治家であった人です。小さいころから学問が好きで後には文章博士にもなっています。道真は当時の天皇に重く用いられ、大臣にまで出世しました (この時に遣唐使を廃止したことは有名)。しかし当時の実力者であった藤原氏の反感をかい、突然太宰府(福岡県)に流されてしまいました。2年後に道真は亡くなりましたが、その後道真のたたりとする怪事件が京都に相次いで起ったといえます。いつのころからか京都の人々はほこらを京都の北野にたて、天満天神として道真をまつようになりました。これ以降道真は学問の神様になり、現在でも全国で厚い信仰を受けています。

• 楠木正成

楠木正成は南北朝時代に活躍した武将です。後醍醐天皇の命を受け足利尊氏らとともに鎌倉幕府を滅しました。のち後醍醐天皇と相対するようになった尊氏らと戦い、神戸の湊川で戦死しました。

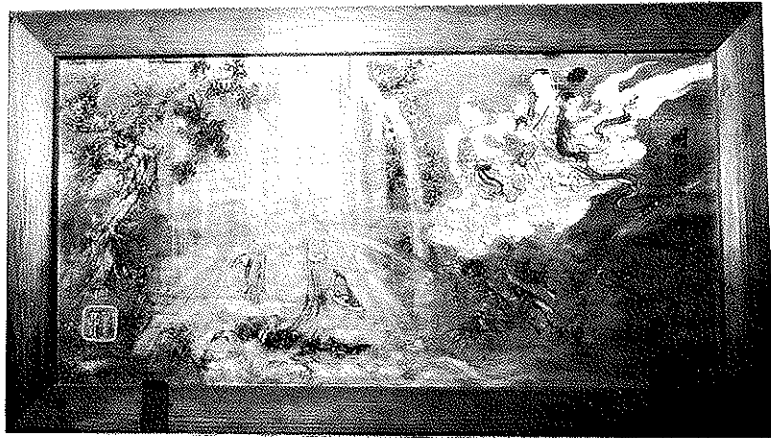
楠木正成とその子である正行の訣別図は、尊氏らを迎え撃つため、京都より神戸に向う途中の桜井の駅(大阪府三島郡島本町)で、死



楠木正成父子訣別図 神明宮(徳次郎町)
大正4(1915)

を決意した正成が正行を自分の生地(河内)へ帰す時の様子を描いたものです。正行は正成の戦死後、遺志を受けついで尊氏らと戦いましたが、高師直によって殺されてしまいました。

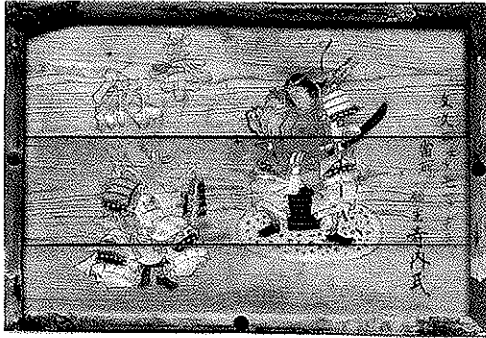
• 文覚上人



文覚上人荒行図 稲荷神社(砂田町)
明治31(1898)

文覚上人は平安時代の末から鎌倉時代の初めにかけて活躍した僧侶です。はじめは遠藤盛遠という武士でしたが、18歳の時源渡の妻である袈裟御前を誤って殺してしまい、その罪をはらうために出家して僧侶となり、全国を渡り歩いて苦しい修業を積みました。この絵馬はその時の様子(熊野山で滝にうたれている)を描いたものです。上人はその後、源頼朝の拳兵を促し、頼朝にあつく用いられましたが、頼朝の死後は佐渡や対島に流され、不遇のうちに人生を終えました。

- じんぐうこうごう
神功皇后



神功皇后図 観音堂（茂原町）
文久2（1862）



神功皇后図 神明宮（徳次郎町）

神功皇后は古事記や日本書紀に出てくる人で、仲哀天皇の后です。天皇とともに熊襲（九州南部の民族）をうちに行く途中、北九州で天皇が急なくなりました。皇后は妊娠中であつたにもかかわらず、家臣であつた武内宿禰とともに、当時朝鮮半島にあつた新羅の国に攻め入り国王を降伏させました。そして日本に帰り応神天皇を生んだといひます。この間皇后は数年間も応神天皇をみごもつていた事になります。

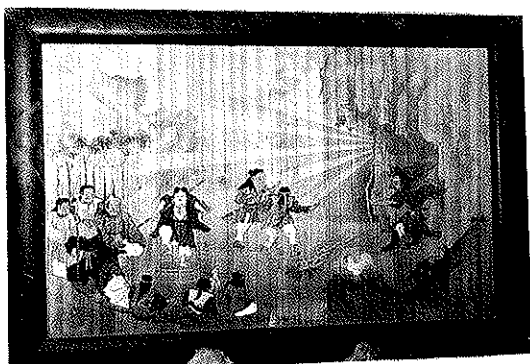
- かんう
関羽

関羽は中国三国時代の蜀の武将です。蜀の劉備に仕え数々の武勲をたてました。性格は節氣を重んじ、豪氣に満ちているところから武人の神様として、中国では今日でも厚い信仰を受けています。

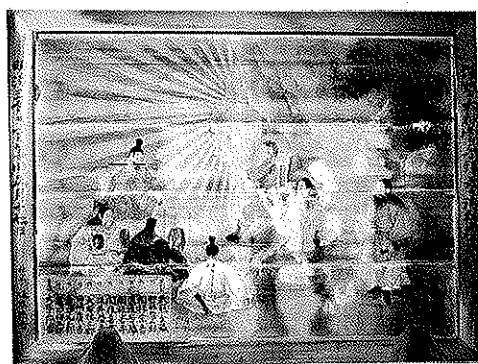


関羽図 神明宮（徳次郎町）

• 天の岩戸



天の岩戸図 塩釜稲荷神社（南一の沢町）
明治41（1908）



天の岩戸図 高霧神社（東刑部町）
明治31（1898）

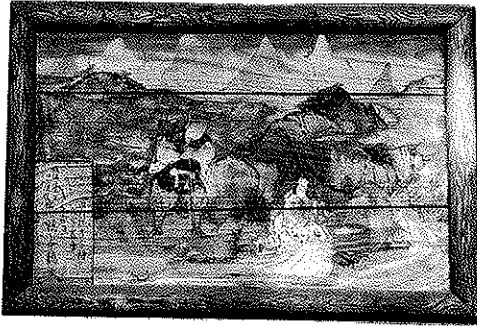


天の岩戸図 星宮神社（西川田町）
明治44（1911）

天の岩戸の話は「古事記」や「日本書紀」の中の代表的な話となっています。

イザナギノミコトとイザナミノミコトは、天の神様の命令を受けて、国と多くの神々を生みましたが、その中でも3貴子といわれるくらい重要な神にアマテラスオオミカミ、ツキヨミノミコトとスサノオノミコトがいました。アマテラスオオミカミは天(昼)の世界を、ツキヨミノミコトは夜の世界を、スサノオノミコトは海原・地上・根の国の世界をそれぞれ支配していました。ところがスサノオノミコトがあまりにも乱暴な行いをするので、アマテラスオオミカミは怒り、天の岩戸に隠れてしまったため、世界中が真っ暗になってしまいました。そこで多くの神様が集まり、天の岩戸の前でアメノウズメノミコトが踊りをし、他の神様はいかにも楽しそうにはしゃいでいました。また朝が来ることをつげるニワトリをなかせたところ、アマテラスオオミカミは外で何があるんだろう、と思い岩戸を少しあけました。そこを力持ちのタジカラオノミコトが手を入れて、アマテラスオオミカミを外に出すことができ、世界は再び明るさをとりもどした、というものです。

• ^{しほてんどうじ}酒呑童子



^{みなもとのよりみつ}源頼光・^{はなぞのちゅうなごん}花園中納言の娘図
観音堂（茂原町）
明治22（1889）



源頼光鬼退治図 平野神社（瓦谷町）

酒呑童子は、^{おとぎごうし}御伽草子の1つで南北朝から室町時代のころに書かれたといわれる物語です。昔丹後国の大江山（京都府）に酒呑童子という鬼が住んでいて、物をぬすんだり人をさらったりして大変にあばれまわりました。鬼退治を命じられた源頼光は、4人の家臣（^{かしん}四天王）を従え、^{やまおし}山伏の姿で鬼退治にでかけました。花園中納言の娘の道案内で、ようやく一行は酒呑童子の岩穴にたどりつきました。童子は僧侶は殺さない、という事で少年の姿になり頼光らと酒をくみかわしているうちに、酔って寝てしまいました。そこを頼光らは好機とばかりに襲い、不意をつかれた童子は鬼の姿にもどって戦いましたが、とうとう殺されてしまいました。

• ^{たかさご}高砂

高砂は^{ぜあみ}世阿弥によって作られた^{のう}能の曲名です。

九州阿蘇の宮の神主^{ともなり}友成が高砂ノ浦（兵庫県）を見物した時、松の木の下を掃き清めている老夫婦に会いました。夫婦は^{あいごい}相生の松（高砂・住吉の2本の名木）のいわれを説き、自分達こそが高砂・住吉の神である、と名をあかし小舟に乗って沖へ去っていきます。友成が住吉神社へお参りすると、住吉の神様が姿をあらわし人々に祝福を与えたというものです。



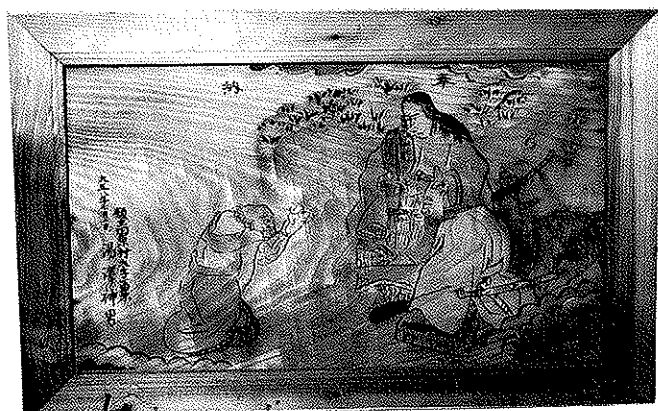
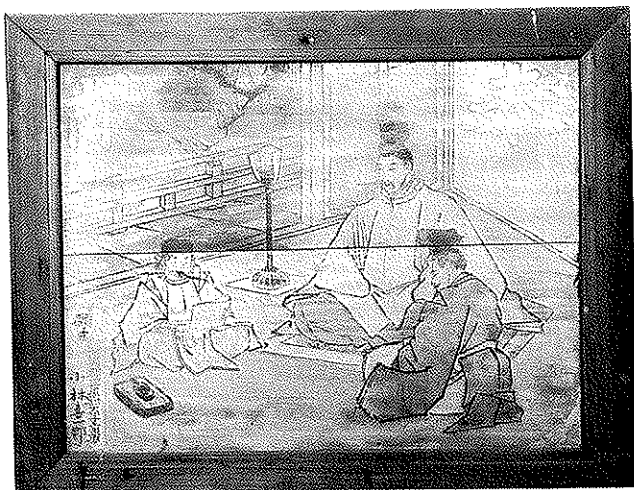
高砂図（押絵） 観音堂（茂原町）

一般に何かおめでたい事がある時に、この絵をかざったり、「高砂や、この浦舟に…」と高砂の^{うた}謡をうたったりします。この絵馬は、高砂・住吉の神である老夫婦にあやかり、長寿を祈願したものと思われま。

• その他

ここにあげたものは何らかの故事来歴をあらわしていると思われるものですが、題目がわからなかったものです。

武者学習図
平出神社（平出町）

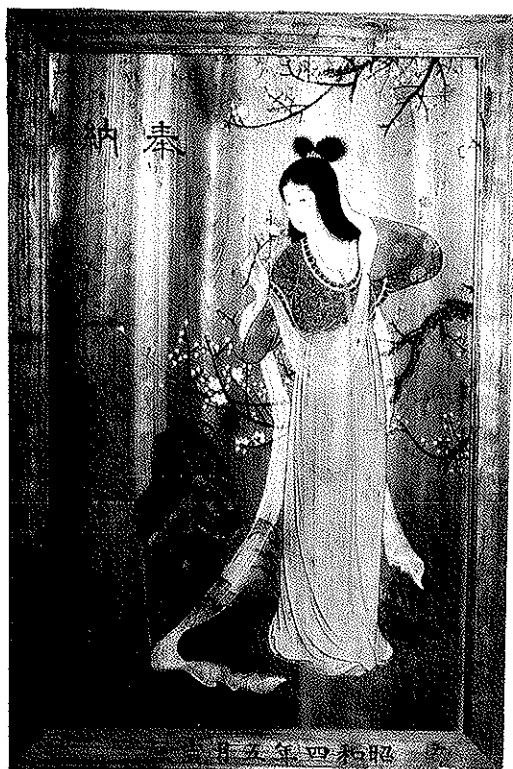


武者献上図
平出神社（平出町）

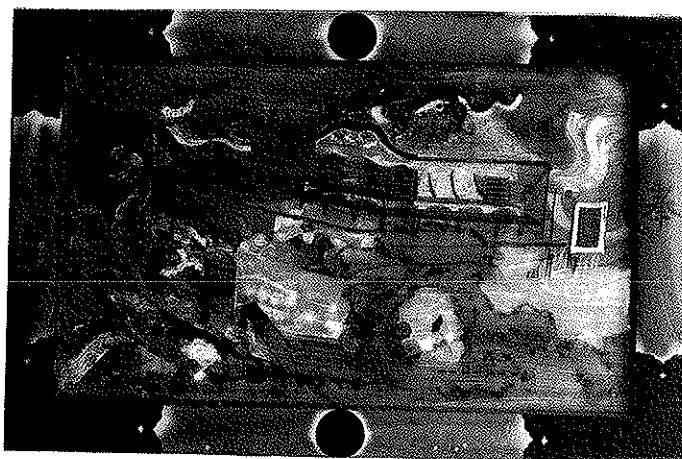
公家と武者図
神明宮（徳次郎町）



⑧ その他の絵



梅花美人図 二荒山神社（馬場通り1丁目）
昭和4（1929）



軍船図 平出神社（平出町）



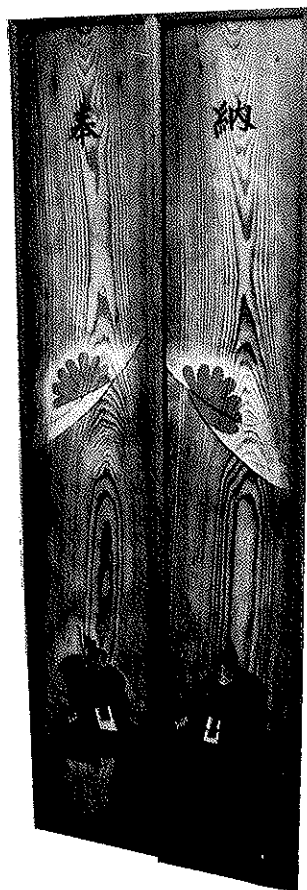
宿場繁栄図 観音堂 (茂原町)



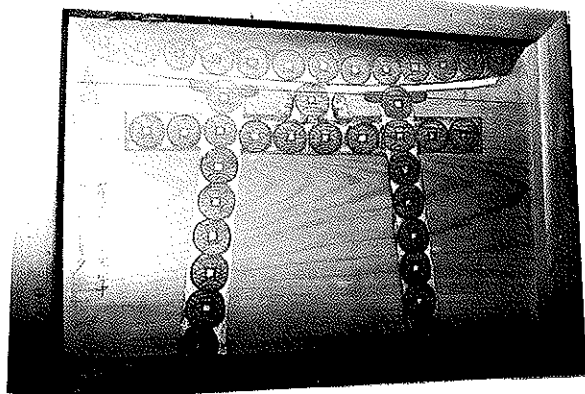
子ども肖像 神明宮 (徳次郎町)



男舞図 平出神社 (平出町)
大正10 (1921)



右、左大臣図 砥上神社 (下砥上町)
明治45 (1912)



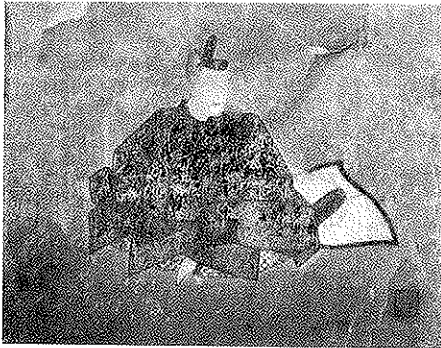
鳥居図 八幡神社 (針ヶ谷町)
大正 8 (1919)

3 和歌・俳句・川柳の奉納

最近、和歌や俳句が流行していると聞きます。いつの世でも趣味を同じくする人たちは自然と集まり小さな会を開きます。その人たちの成果を発表する一つの手段として、昔は板などに書いた和歌や俳句を神社や寺院などに奉納してきました。この章では、和歌・俳句の奉納掲額のうち、絵が付いているものを挙げてみました。

① 三十六歌仙図

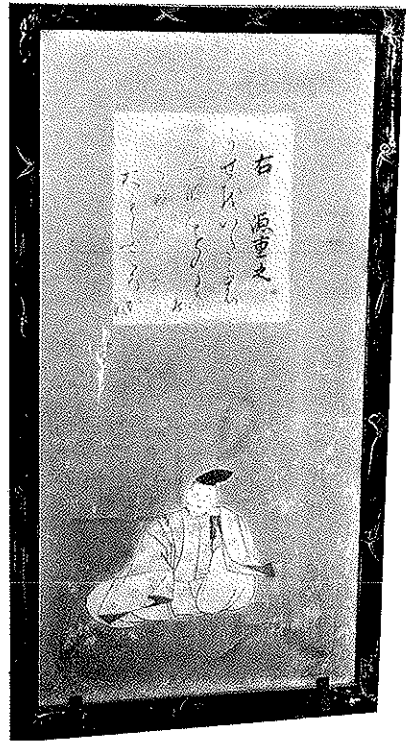
三十六歌仙とは、平安時代の中ころに、藤原公任が、万葉集以降の主な歌人の中から36人を選び「三十六人撰」という歌集を作りました。これ以後、この36人の歌人を「三十六歌仙(36人のすぐれた歌人)」とよび、それぞれの歌と肖像をあわせたものが多く描かれてきました。二荒山神社(馬場通り1丁目)のものは36枚すべてが菊地愛山筆によるもので市指定有形文化財になっています。



三十六歌仙図 (大伴家持)

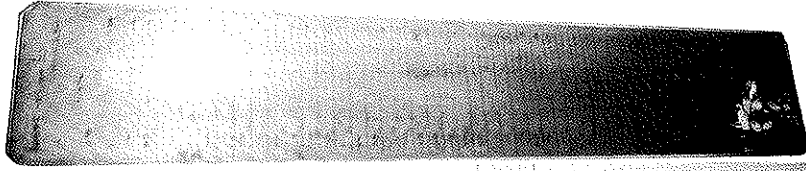


三十六歌仙図 (左近)



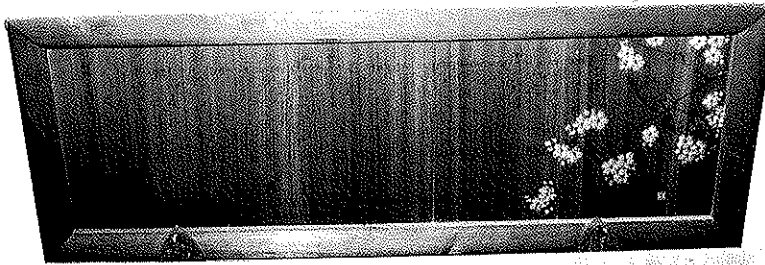
三十六歌仙図 (源重之)
二荒山神社(馬場通り1丁目) 菊地愛山筆
市指定有形文化財

② 俳句額



俳句額 稲荷神社（兵庫塚町）
弘文2（1845）

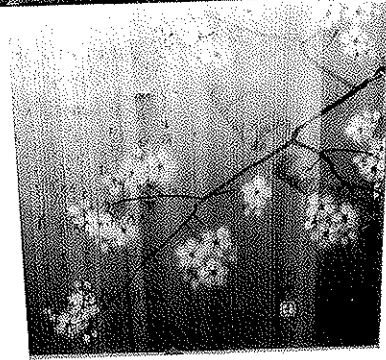
同上部分



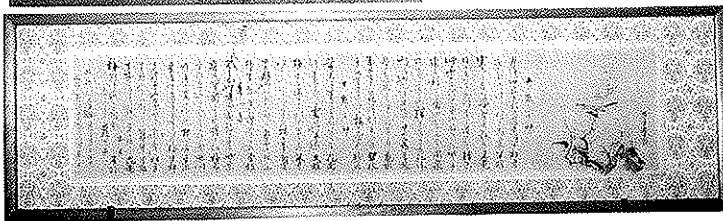
俳句額 高麗神社（東刑部町）
明治36（1903）



同下部分

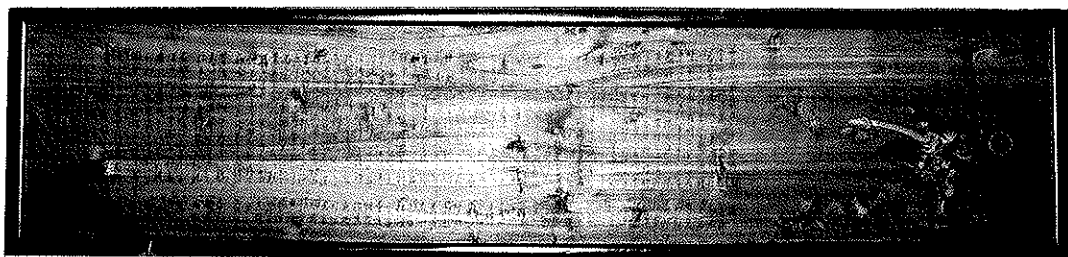


同上部分

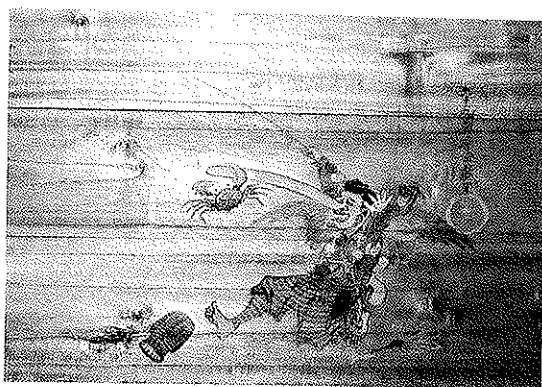


俳句額 菅原神社（天神2丁目）
明治8（1875）

③ 川柳額

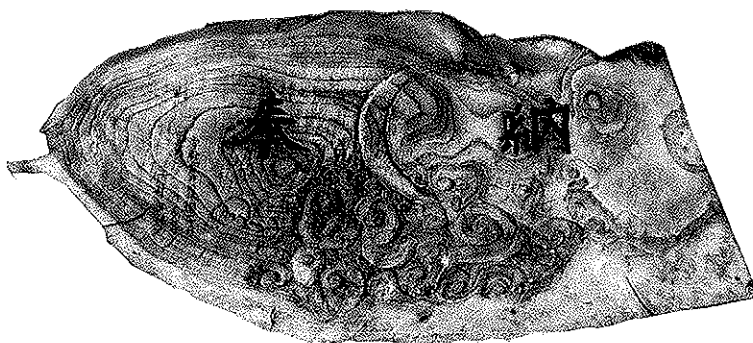


川柳額 一向寺（西原2丁目）
大正11（1922）



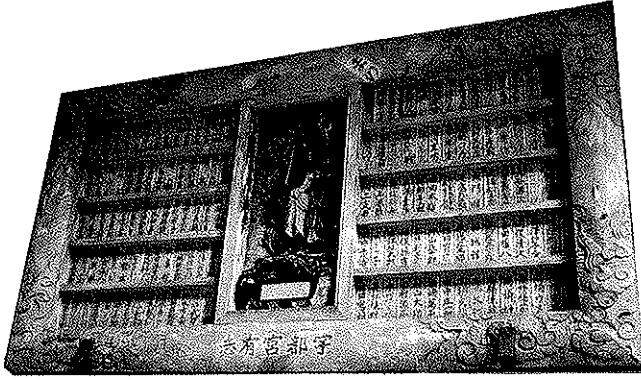
同上部分（菊地愛山筆）

4 板を彫って



三日月図 三日月神社（石井町）

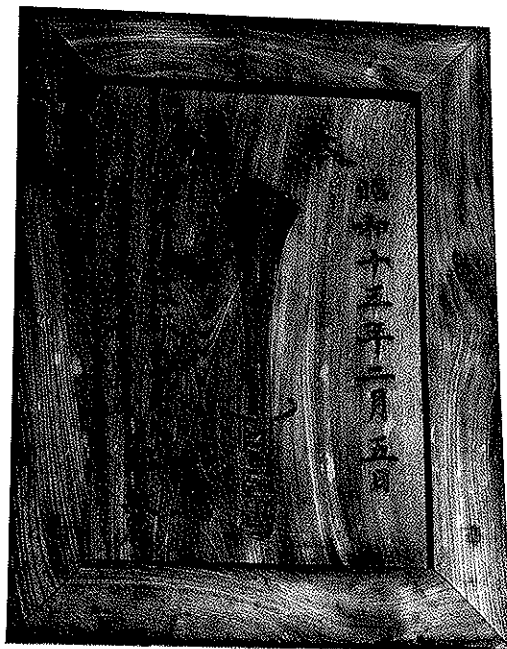
石井町にある三日月神社はイボとりに^{いぼとり}に^{いぼとり}靈験があるといわれています。三日月神社は小さな^{いぼ}円墳の上に建っているのですが、その円墳にある石をもらってきてイボをなざると、すぐなおってしまうといわれています。なお用いた石は必ずもとの場所にもどすのだそうです。



不動明王 持室院 (田下町)



同左部分



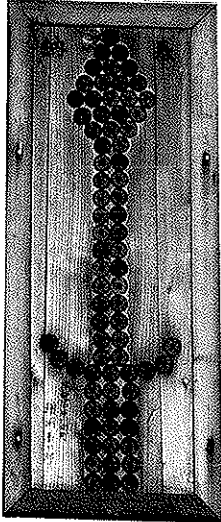
宝剣 持室院 (田下町)

昭和15 (1940)

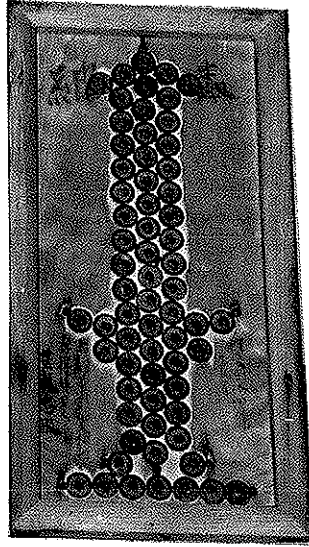
5. 板に付けて

① 古銭^は貼り付け

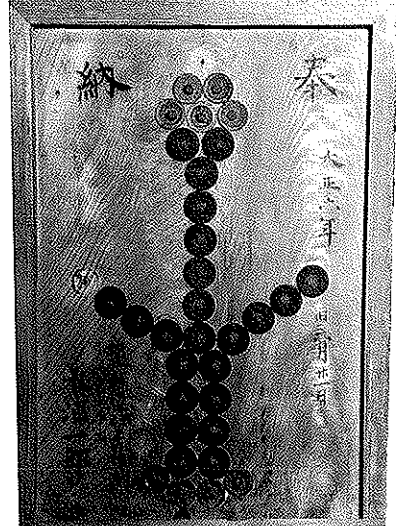
古銭を板に貼り付けて、宝剣や鳥居の形にしたものです。古銭を板に貼り奉納することによって、お賽銭^{さいせん}をあげるのより、多くの効果を期待したのかもしれませんが。



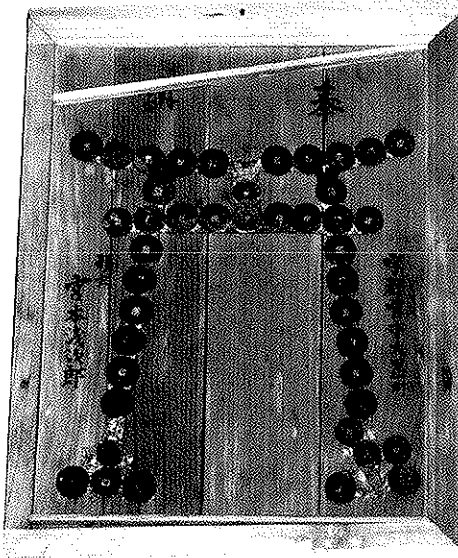
古銭宝剣 持宝院 (田下町)



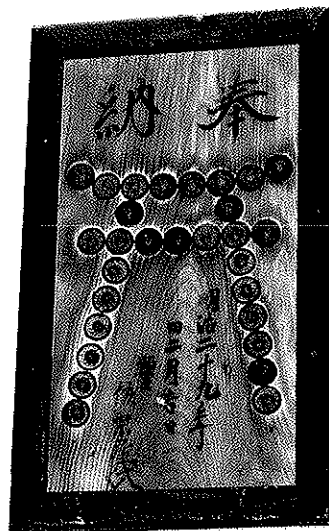
古銭宝剣 持宝院 (田下町)
明治34 (1901)



古銭宝剣 平出神社 (平出町)
大正 6 (1917)

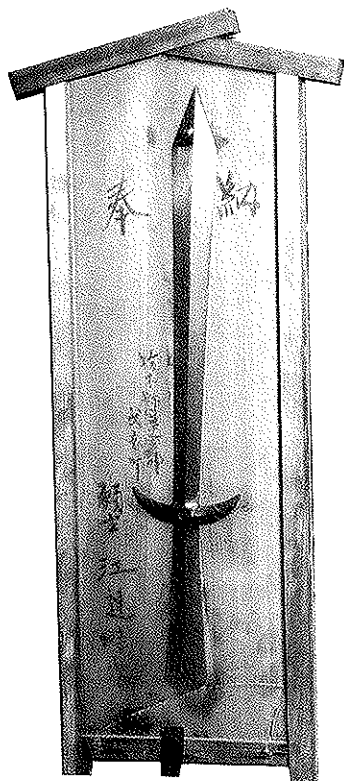


古銭鳥居 持宝院 (田下町)

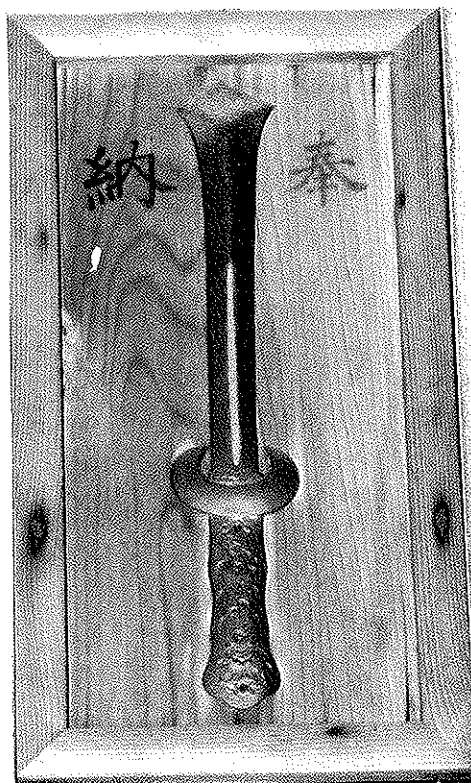


古銭鳥居 持宝院 (田下町)
明治29 (1896)

② 鉄・ブリキ製宝剣貼り付け



ブリキ製宝剣 平出神社（平出町）

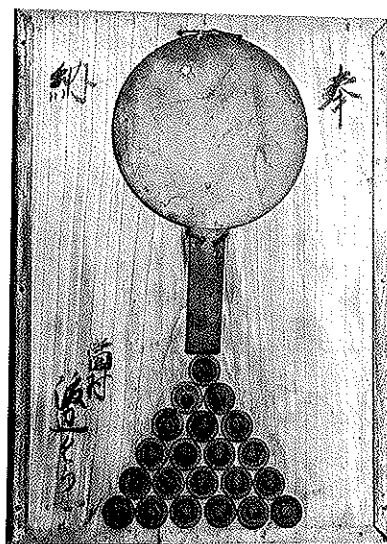


鉄製宝剣 持宝院（田下町）

③ 柄鏡^{えかがみ}貼り付け

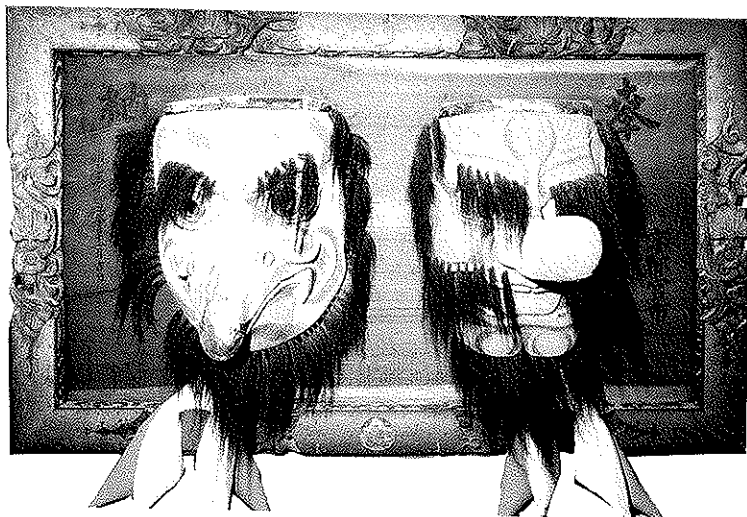
神社には必ず「御神体^{ごしんたい}」があります。御神体とは神様がのりうつっているものです。

大きなものは山や岩、樹木などもありますが、一般には、鏡・玉・剣・鈴などが御神体であることが多いようです。この柄鏡を貼り付けたものは、御神体の鏡ならば必ず願いをかなえてくれるだろう、という期待を込めて奉納したものかもしれません。



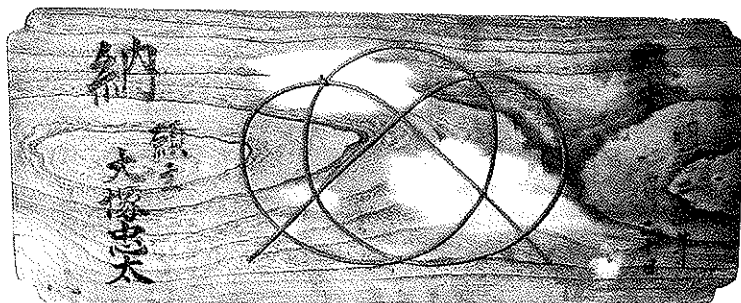
柄鏡・古銭貼付 太子堂（下平出町）

④ 天狗面貼り付け

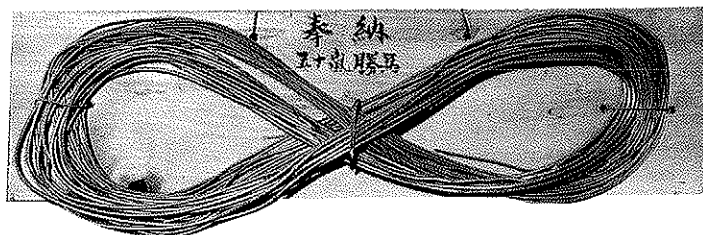


双天狗面貼付 琴平神社（清住1丁目）
明治34（1901）

⑤ 針金貼り付け



針金貼付 稲荷神社（砂田町）
明治24（1891）



針金貼付 稲荷神社（砂田町）

砂田町にある稲荷神社は、^{はりがねじんじや}針金神社とも地元ではいわれており、何か願い事をする時や、願い事がかなったお礼に、針金を奉納します。現在でも針金を奉納する人がおり、「何でも願い事は必ずかなえてくれる」と地元で厚い信仰を集めています。

6 木以外の材料で

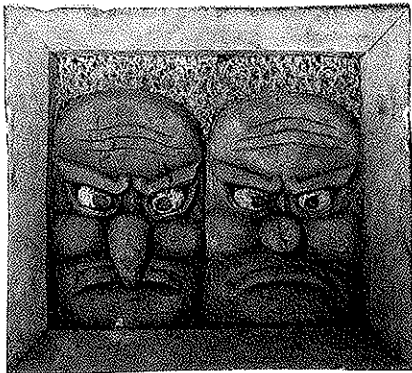
神社や寺院などに奉納したものは木を用いたものばかりとは限りません。ここでは、木以外の材料を用いたものを何種類かあげてみました。

① 瓦

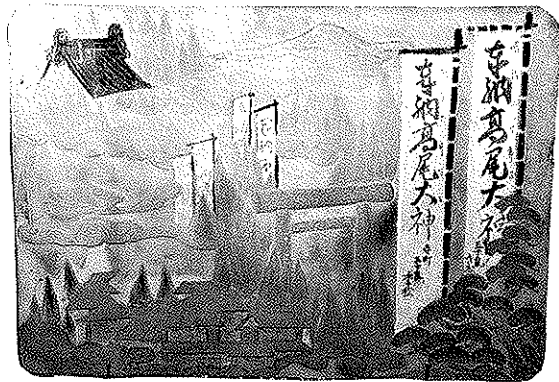


龍図 鶏峯神社（峰町）
大正9（1920）

② 石

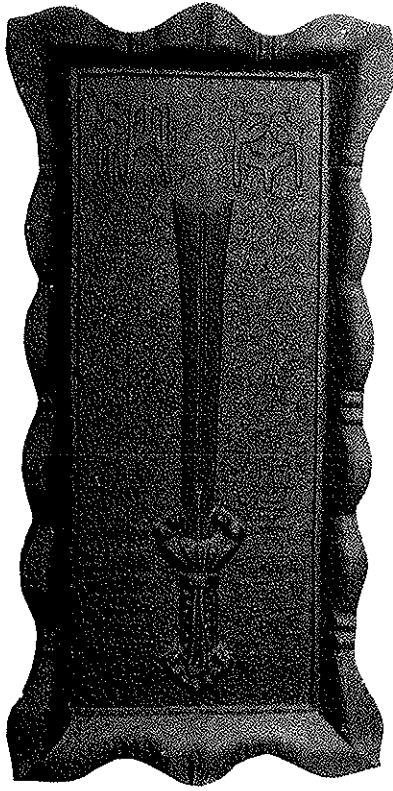


双天狗図 神明宮（徳次郎町）
明治23（1890）

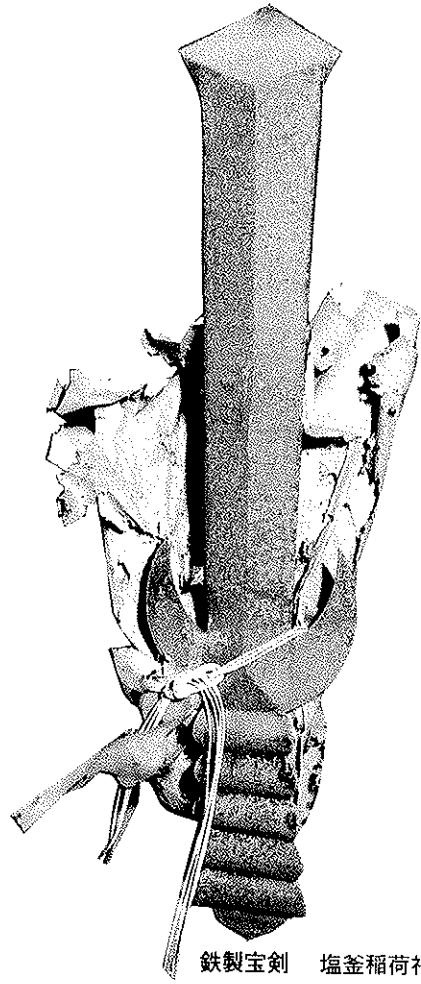


神社境内図 高麗神社（岩曾町）
明治20（1887）

③ 鉄

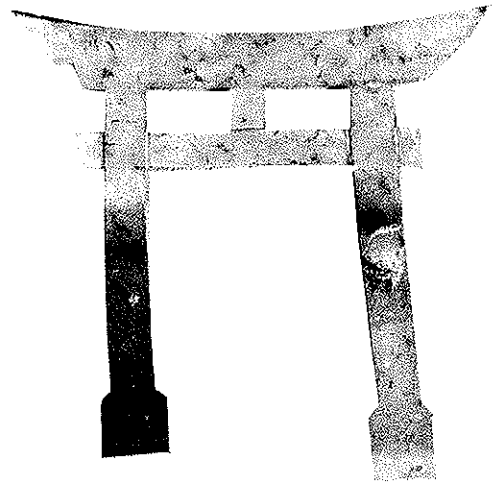


ちゆうてつ
鑄鉄製宝剣 持宝院 (田下町)
大正13 (1924)



鉄製宝剣 塩釜稲荷神社
(南一の沢町)

④ ブリキ

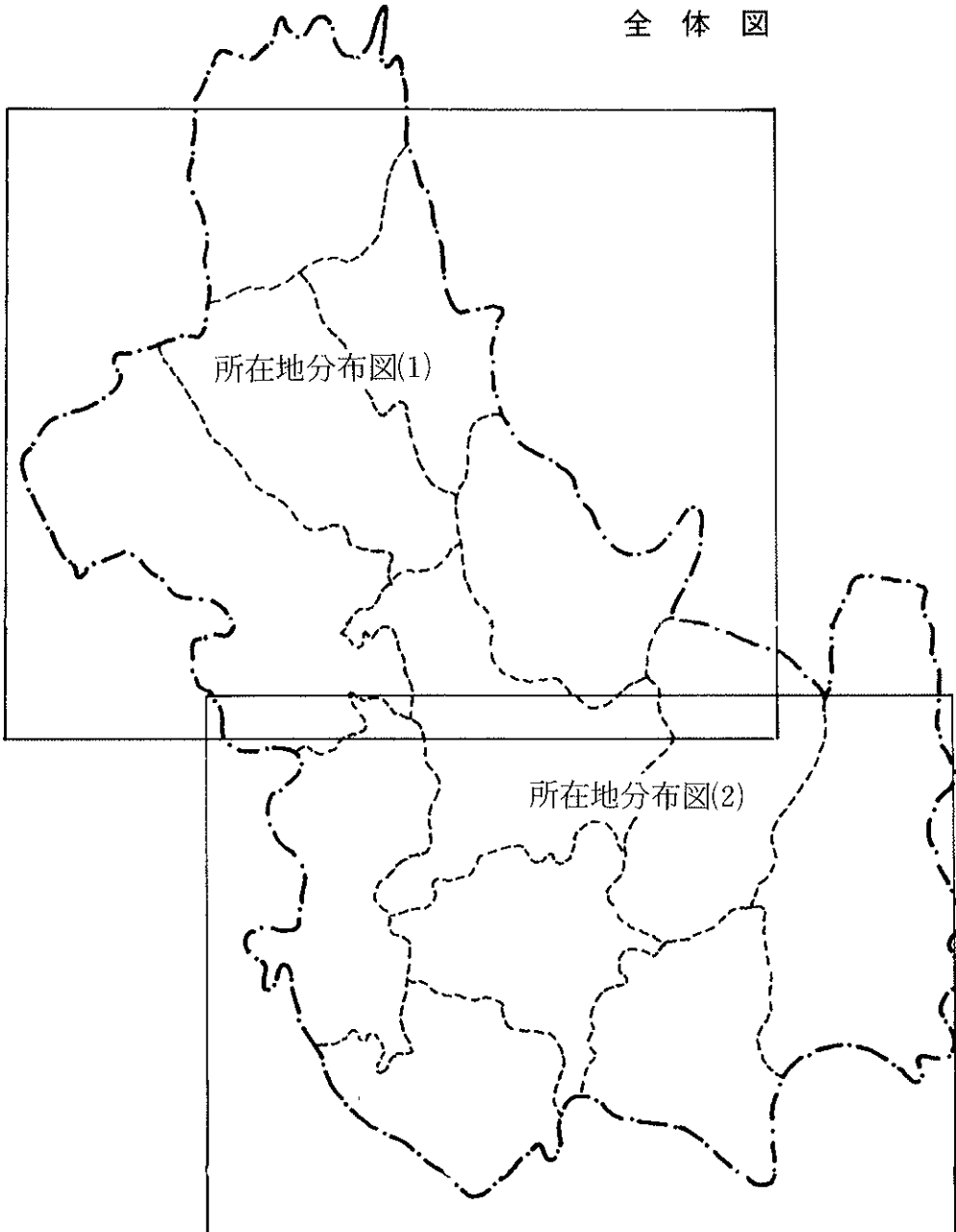


ブリキ製鳥居 宝勝寺 (小幡1丁目)

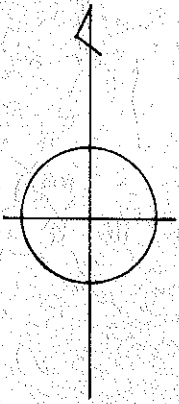
Ⅲ 宇都宮の絵馬資料

1 地区別絵馬一覧

全 体 図



所在分布図(1)



●神明宮(富屋-1)

●薬師堂(国本-3)

●岩原神社(国本-2) ●桜葉師堂(国本-4)

●持宝院(城山-3)

●宝国神社(国本-1)

●大谷寺(城山-4)

●地藏堂(陽西-1)

●羽下薬師堂(城山-2)

塩釜稲荷神社(陽西-2) ●

●飯沼薬師堂(城山-1)

●星宮神社 (豊郷-3)

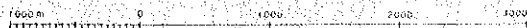
●平野神社 (豊郷-1)

●高霞神社 (豊郷-2)

●平出神社 (平石-1)

●琴平神社 (星が丘-1)
●延命院 (星が丘-2)
●二荒山神社 (旭-2)
●宝勝寺 (一条-5)

—53—



●一向寺 (一条-4)

●神明宮 (一条-2)

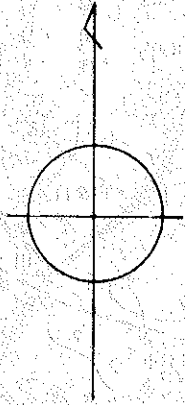
●菅原神社 (旭-1)

●鶏峯神社 (陽東-1)

●太子堂 (平石-3)

●庚申神社 (平石-2)

所在分布図（2）



●塩釜稻荷神社（陽西—2）

●琴平神社（星が丘—1）

●延命院（星が丘—2）

●二荒山神社（旭—2）

●宝勝寺（一条—5）

●一向寺（一条—4）

●神明宮（一条—2） ●菅原神社（旭—1）

●瀬尾神社（一条—1）

●小松家薬師堂（宮の原—2）

●飯沼薬師堂（城山—1）

●星宮神社（宮の原—1）

●砥上神社（姿川—2）

●菅原神社（陽南—1）

●薬師堂（姿川—3）

●星宮神社（姿川—4）

●稻荷神社（横川—3）

●雀宮神社（雀宮—1）

●中島神社（雀宮—5）

●熊野神社（雀宮—4）

●八幡神社（雀宮—3）

●高籠神社（雀宮—2）

●観音堂（雀宮—6）

●平出神社（平石-1）

●太子堂（平石-3）

●庚申神社（平石-2）

●鶏峯神社（陽東-1）

●三日月神社（陽東-3）

●高竈神社（陽東-2）

●猿山神社（横川-2）

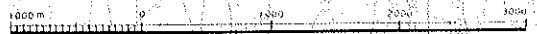
●高竈神社（瑞穂野-2）

●菅原神社（横川-1）

●高竈神社（瑞穂野-3）

●稻荷神社（姿川-1）

●高竈神社（瑞穂野-1）



◎ 一条地区

1 瀧尾神社

・ 滝谷町 20 (縦×横)

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	拝み図			芳村タケ, 古山ウタ	33×42	
2	小槌図			中山幸子	38×82	
3	唐獅子図			金田幸子	60×45	

2 神明宮

・ 一条3丁目

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	二神図			□藤由□	45×27	
2	鳥居図(古銭)		昭和18年7月5日 (1933)	松本作蔵	46×37	

3 丹堂薬師堂(アカン堂)

・ 材木町

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	小絵馬 め…………… 3 御神酒徳利 … 1 (合計4枚)					

4 一向寺

・ 西原2-1-10

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	川柳額	絵 菊地愛山	大正11年2月21日 (1922)	56名の川柳連記	42×182	右方に愛山の絵

5 宝勝寺

・ 小幡1-3-10

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	間引き図 女拝み図 鳥居(ブリキ製) 小絵馬 拝み…………… 1 御神酒徳利 … 1 鶏…………… 1 (合計3枚)			飯野チイ	106×63.5 21.5×29.5 26×25	2枚あり

◎ 陽北地区

1 高麗神社

・ 竹林町651

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	伊勢太々神楽図	七十八翁 愛山	明治26年 (1893)	伊勢太々 講中福田吉蔵 他7名	75×133	

◎ 旭地区

1 菅原神社

・ 天神2丁目

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	俳句額		明治8年2月25日 (1875)		49.5×172	右に梅に鶯の絵俳句は26首
2	小絵馬(御神酒徳利)		昭和55年1月11日 (1980)	斎田水貴子	15.5×23.5	

2 二荒山神社

・ 馬場通1-1-1

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	神門新始式の図	眞山	大正8年1月吉日 (1919)	上田虎吉	95×189	
2	大工三神図	眞道	大正5年10月 (1916)	宇都宮市建具師指 物師一同	110×178	
3	梅花美人図	臯堂	昭和4年5月 (1929)	茨城県久慈郡袋田村池田 岡村きん	95×65	
4	三十六歌仙図	愛山			60.5×33.5	全36枚 市指定文化財

◎ 陽南地区

1 菅原神社

・ 台新田1丁目1

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	直実・敦盛図		昭和10年9月25日 (1935)	大島豊次	45×58	
2	小絵馬(重ね餅)				20×27	

◎ 陽西地区

1 地藏堂

・ 駒生町

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	小絵馬 め…………… 9 重ね餅…………… 11 御神酒徳利… 15 拝み…………… 1					

神社 …………… 1						
不明 …………… 7						
(合計50枚)						

2 塩釜稻荷神社

• 南一の沢町 38

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	天の岩戸図		明治41年8月 (1908)	宇都宮市材木町 宮崎國太郎	57.5×86	ブリキ製
2	剣				35×20	
3	髪の毛				35×20	
4	小絵馬					
	重ね餅 …………… 3 御神酒徳利 …… 2 (合計5枚)					

◎ 星が丘地区

1 琴平神社

• 清住 1-3-37

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	双天狗面	面工師 都所源太郎	明治34年1月吉日 (1901)	宇都宮市(氏名連記)	127×212	天井改造して掲出し てある
2	岩戸神薬図	應好 愛山菊地典古	明治16年10月10日 (1883)	霞田真一・舞子連中 18名連記	121×182	
3	女拝み図				31.5×41.5	文字判読不能
4	女拝み図			野村とみ		
5	羽団扇図				100×167	
6	鳥居図(古銭)				60.5×45.5	

2 延命院

• 泉町 4-30

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	延命地藏菩薩縁日図	菊地愛山	元治元年3月 (1864)	延命院世話人(連記)	122×242.5	市指定文化財
2	地藏図(小絵馬)				22×15	

◎ 陽東地区

1 鷗峯神社

・ 峰町 80

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	双天狗面	鎮雄	昭和55年11月吉日 (1980)	伊藤 出	33×95	
2	雲龍図		大正9年8月15日 (1920)	宇都宮市宿郷町 菊池セン子	44×75	瓦製
3	柄鏡貼付		大正9年11月29日 (1920)	橋本匡以	39×30	柄鏡は亡失
4	鶏図		昭和41年11月29日 (1966)	野口ハツ	19×29	
5	鶏図		昭和32年11月29日 (1957)	野沢秀行	18×23	
6	鶏図				16×22	
7	鶏図(紙製)			清住町 菊地良子	175×25	
8	鶏図		昭和41年10月1日 (1966)	(裏面) 杉山こう一	16×24.5	
9	鶏図		昭和41年11月 (1966)	今泉町 綱川千代美 芳江善光	13×19.4	
10	鶏図		昭和9年7月27日 (1934)	芳賀郡南高根沢寺ノ内 水沼義行	35.5×42.5	
11	小絵馬 鶏 …………… 11 鳥の文字 …… 2 重ね餅 …… 1 鶏(破損の一部)…1 (合計15枚)					

2 高麗神社

・ 石井町 1110

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	神楽奉納図	田中東洋	大正13年2月吉日 (1924)	小島藤五郎 他3名	68×90	
2	神楽奉納図		昭和12年3月21日 (1937)	小川孫作 他3名	43×58	ガラス張
3	男拜み図		大正13年5月2日 (1924)	平石村大字石井 栢原治平	50.5×68	
4	神楽奉納図		明治12年11月9日 (1879)	蕾村 参宮連中	91×151.5	

3 三日月神社

・ 石井町

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	三日月図			宇都宮市葉瀬1丁目19 竹井ヨシノ	32×72	変木彫刻

◎ 宮の原地区

1 星宮神社

・ 上欠町 706

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	横笛上達祈願		明治22年正月28日 (1889)	上欠下村 木村久彌 他多数	88×146	
2	河川改修図				75×120	縮尺百分の一

2 鶴田町小松家薬師堂

・ 鶴田町 241

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	小絵馬 め…………… 29 向いめ…………… 2 虎…………… 2 鶏…………… 3 重ね餅…………… 6 御神酒徳利… 6 不明…………… 8 (合計56枚)					

◎ 平石地区

1 平出神社

・ 平出町 3848

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	馬図(紙本)	東鴻	昭和18年2月11日 (1943)	宇都宮市…の沢町 久保藤市	41×78.5	
2	神社風景図(紙本)			宇都宮 中河原 (以下不明)	51.5×72	
3	負傷軍人の像図		明治27年11月21日 (1894)	根本定吉	117×74	
4	伊勢太々神楽図	菊地愛山		當村 渡辺康造 他20名	114×206	
5	近江八景図	養老亭一舟	安政4年6月 (1857)	參宮連中吉澤鶴吉 他14名	87×156	
6	神社境内図		明治12年3月 (1879)	當村 高橋岩之助 他2名	69.5×123	
7	陸軍軍人図		昭和16年5月11日 (1941)	宇都宮市堀田町262 中山莊蔵	54×40.5	(押絵)
8	男舞図(紙本・印刷)	宇梶時照	大正10年春14 (1921)	宇梶時照	59×48	
9	軍船図			當村 水沼五郎蔵	69.5×106	
10	牛若丸図			宇都宮市築瀬町 櫻井房一郎	34×26.5	
11	重ね餅図		大正15年8月10日 (1926)	斎藤氏	29.5×37.5	
12	農作業図	田原住 手塚多門	明治29年9月23日 (1896)	當村 水沼信一	71×128	

13	武者(学習)図		河内郡田原村大字上田原 小林喜一郎	36×48	
14	太鼓上の猫図			24×30	
15	群雀図(5羽)	大正6年1月16日 (1917)	河内郡古里村大字中 岡本根古里 杉田興平	50×87.5 50×87.5	
16	婦人拝み図			28×37	
17	夫婦雷神拝み図	明治31年9月16日 (1898)	宇都宮市大町 和久井林司	45.5×59	
18	親子拝み図		宇都宮市西原町 宇都宮吉造	37×44	
19	夫婦拝み図		芳賀郡清原村大字氷室 阿久津正一郎	47×62	
20	猫と雷図	大正2年11月11日 (1913)	宇都宮 佐藤氏	51×65	
21	雷神図	昭和7年2月1日 (1932)	塩谷郡氏家町大字押上 大野貞一郎	51×63	
22	家族参詣図		福塚氏	41.5×58.5	
23	蜘蛛に親子猫図	大正2年11月11日 (1913)	木村氏 19才男	50.5×73	
24	武者(献上)図	大正8年7月1日 (1919)	田原村大字下田原 湯澤神男	32.5×51.5	
25	小絵馬(1枚)				
26	宝剣(古銭)	大正6年11月21日 (1917)	栃木縣河内郡平石村 大字上平出 水谷一郎	45.5×31.5	
27	宝剣(ブリキ製)		栃木縣塩谷郡氏家町 江連時次	55×23.5	ガラス張

2 庚申神社

・ 下平出町

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	昇龍図(変木)	如泉	昭和55年2月 (1980)		68×93	

3 太子堂

• 下平出町140

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	柄鏡・古銭貼付			當村 渡辺くら女	41×29.5	
2	絵馬奉納図		大正5年3月10日 (1916)	上三川町桶職一同	55×91	
3	力士土俵入り図		天保5年1月 (1834)	道場宿 桶屋吉太衛門 他3名	66×101	
4	小絵馬					
	向い天狗 …… 6					
	重ね餅 …… 65					
	御神酒徳利 … 62					
	め …… 62					
	向いめ …… 1					
	拝み …… 5					
	鶏 …… 7					
	宝剣 …… 1					
	馬 …… 1					
	雛人形 …… 1					
	3つめ …… 1					
	(合計215枚)					

◎ 横川地区

1 菅原神社

• さるやま町182

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	菅原道真図		明治40年9月 (1907)	當村 吉澤吉蔵	66×79	
2	母子拝み図	東陽	昭和3年9月25日 (1928)	吉羽明弘	54.5×69.5	
3	菅原道真図	六鬼	昭和9年9月25日 (1934)	関川巻太郎	51×39.5	

2 猿山神社

• 下栗町216

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	馬図		昭和11年11月 (1936)	宇罷泰次	69×74	

3 稲荷神社

• 砂田町 454

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	開墾図			大字東横田 増淵全八 他24名	116×181	

2	家族拝み図	(方印) 南北 (瓢印) 南北	明治31年2月吉日 (1898)	福田勝女	22×33	
3	文覚上人図		明治31年2月吉日 (1898)	福田文志	55×98	
4	布袋図		明治31年2月吉日 (1898)	大塚多治見	52×98.5	
5	神楽(白狐の舞)図		明治44年 (1911)		60.5×90	
6	小鍛冶図		明治44年11月29日 (1901)	室田常松	42.5×60	
7	神社風景				57×91	ベニヤ板
8	針金		明治24年7月2日 (1891)	大塚忠太	29.5×73.5	桐板・鉄線
9	針金			五十嵐勝馬	16×47	鉄線八の字
10	針金			古谷千力	14×23.5	鉄線は亡失

◎ 瑞穂野地区

1 高麗神社

・ 東刑部町

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	天の岩戸図		明治31年旧1月17日 (1898)	東刑部町 武熊金蔵 他11名	90×110	
2	俳句額		明治36年 (1903)		58×156	右方に桜花園

2 高麗神社

・ 上桑島町 870

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	太々神楽奉納図		文久2年12月28日 (1862)	□□神主 上桑島町4名連記	64×91	

3 高麗神社

・ 下桑島町 730

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	龍図	瀧沢成伍	大正15年11月24日 (1926)		47×86	
2	小絵馬 重ね餅 …………… 2 御神酒徳利 …… 1 (合計3枚)					

◎ 豊郷地区

1 平野神社

・ 瓦谷町 1

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	神楽奉納図		明治8年2月吉日 (1875)	金田□三郎	60.5×85	
2	源頼光鬼退治図		三月朔日	瓦谷 水沼甚太	64×93	
3	牛若丸・弁慶図			根本氏	45×61	

2 高麗神社

• 岩曾町 882

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	神社境内図	東洋	明治28年旧正月吉日 (1895)	當宇 佐藤源一郎	41×60.5	開業17年記念 石製彫刻
2	男子拝み図			半田健吉	60.5×92	
3	神社境内図		明治26年吉日 (1887)	寺町 五十嵐才松	47.5×68.5	

3 星宮神社

• 横山町 34

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	髪の毛					

◎ 国本地区

1 宝国神社

• 宝木本町 1482

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	謡曲奏楽団	寿溪	大正6年11月23日 (1917)	仁良塚 小宮久次 他5名	69×93	
2	小絵馬(重ね餅…4)					

2 岩原神社

• 岩原町 233

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	騎竜弁財天図	七十翁 宮崎華香	大正13年10月9日 (1924)	宇都宮市材木町 宮崎富次	88×165	

3 薬師堂

• 新里町久武

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	男子人物図			渡辺ハツ 七十八才	33×46	破損
2	小絵馬(め図)				16×27	裏面記載あり
3	小絵馬					
	め図 …………… 24 御神酒徳利 …… 9 重ね餅 …………… 9 虎 …………… 1 不明 …………… 3 (合計46枚)					

4 桜薬師堂

• 宝木本町仁良塚

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	小絵馬(め図)			松本忠三郎	13×27	裏面も記載

2	め図(変木)			佐藤ミツ	18×60	
3	小絵馬					
	向いめ …… 49					
	め …… 33					
	重ね餅 …… 2					
	御神酒徳利(向い め入り) …… 2					
	拝み …… 2					
	不明 …… 18					
	(合計106枚)					

◎ 城山地区

1 (麦倉家)飯沼薬師堂

・ 下荒針町 3638

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	小絵馬					
	め …… 29					
	重ね餅 …… 12					
	御神酒徳利 …… 9					
	向いめ …… 4					
	宝剣 …… 1					
	漢字の眼 …… 1					
	不明 …… 4					
	(合計60枚)					

2 羽下薬師堂

・ 下荒針町 3284

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	参詣図		文久2年4月 (1862)	山城園山科住人 海信房	46×60	
2	子供拝み図		文久2年 (1862)	与三吉 他2名	55×66	
3	母子拝み図			上荒針邑 何部氏	46×55	
4	母子拝み図		文久2年8月晦日 (1862)	當所 いし	46×57	
5	参詣図		明治20年4月30日 (1887)	當村 阿部保太郎	50.5×76.5	
6	薬師堂風景(拝み)図		昭和2年11月3日 (1927)	城山村大字荒針羽下 石川梅三郎	55.5×55.5	油絵

3 持宝院

• 田下町 564

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	風神図	竹我	昭和14年12月 (1939)	福島県伊達郡明活村 高木末吉	53.5×69.5	
2	不動明王像		昭和2年2月吉日 (1927)	宇都宮有志	90×180	
3	不動明王 両脇侍図(紙本)			国本村大字岩原 高橋文平	70×56	
4	宝剣(彫刻)	鹿沼町 芳田三蔵商 会	昭和15年2月5日 (1940)	梶谷郡氏家町大字氏家新田45 小菅敏雄	60.5×46.5	
5	宝剣(鑄鉄)		大正13年1月 (1924)	栃木縣鹿沼町 橋本友一郎 他2名	85×41	
6	宝剣(鉄製)		昭和15年2月28日 (1930)	鹿沼町 菊池忠助	92.5×18	
7	宝剣(鉄製)			宇都宮市 室田和十郎	53×30	
8	宝剣(銅製)				50×27	
9	宝剣(鉄製)		昭和6年3月1日 (1931)	宇都宮市大寛町1-20 小倉二三	56×28.5	ガラス張り
10	宝剣(プリキ製)		昭和36年8月11日 (1961)	宇都宮市春日町 寮 植木勇	35×20	
11	宝剣(古銭)			宇都宮市 鈴木カネ	76×39	
12	宝剣(古銭)			駒場氏	85×18.5	
13	宝剣(古銭)		大正7年2月28日 (1918)	上都賀郡加藤村大字土久我 大貫儀市	71.5×53	板→紙→古銭 奉納の文字……画紙
14	宝剣(古銭)		宇都宮市茂登町 増淵トミ	64.5×41.5		
15	宝剣(古銭)		上都賀郡鹿沼町字田町 齋藤起	上29 71.5×下23.5		
16	宝剣(古銭)	明治34年7月1日 (1901)	上都賀郡北犬飼村大字深津 若林忠次	54.5×27.5		
17	宝剣(古銭)		宇都宮市川向町 増淵善七郎	80×33		
18	宝剣(古銭)		宇都宮市 上田キン	76×39		
19	鳥居(古銭)		宇都宮市大黒町 宮本浅次郎	49.5×38.5		
20	鳥居(古銭)		明治20年1月2月吉日 (1896)	佐宗屋氏	50.5×29	奉納者は、多気山参 道の飲食店の屋号?

4 大谷寺

• 大谷町 1198

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	雲竜図	中村喜傳治	文政12年7月吉日 (1829)	駒生町 中村喜傳治	80.5×115	

◎ 富屋地区

1 神明宮

• 徳次郎町田中

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	家族拝み図	七十三叟 口文画 末廣	明治〇年3月吉日	河内郡大澤村大字猪倉 神山ヨネ	25×29	
2	参詣図		明治34年旧2月15日 (1901)	河内郡富屋村大字 中徳次郎 齋藤吉五郎	71.5×84.5	
3	婦人拝み図			宇都宮市宿郷町 青木キク子	28×36	
4	家族拝み図		明治32年6月 (1899)	當村 池田氏	27×45	
5	関羽図				34×48.5	
6	日本故事(内容不明)				33.5×48	
7	楠木正成父子訣別図		大正4年5月吉日 (1915)	國本村大字新里 福田榮吉	32×44.5	
8	親子拝み図		昭和7年8月26日 (1932)	細田氏	28×36.5	
9	神功皇后図			河内郡瓦谷村 相馬源治郎	43.5×65.5	
10	仁徳天皇図		明治35年12月 (1902)	河内郡田原村 上村圓吉	38×57	
11	家族拝み図			細田氏一同	36×55	
12	天狗図(石製)		明治23年正月 (1890)	中町 福田露吉	26.5×29.5 ×厚さ6	石製彫刻
13	子ども肖像(鉛筆画)			河内郡國本村大字戸祭字野白 渡辺清吉	23.5×35.5	ガラス張り
14	神社風景図				29×35.5	
15	母子拝み図			細田氏	26×38.5	
16	母子拝み図			(裏面左下)富子	24×33.5	ペニヤ板

◎ 姿川地区

1 稲荷神社

・ 兵庫塚町 288

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	間引き図	中山信茂 雲□齋 藤原□□	文政9年2月 (1826)	今泉元兵衛	99×150	ガラス(破損)張
2	武者図		弘文2年8月吉日 (1845)	今泉作右衛門	73×93	
3	俳句額		大正2年2月初午 (1913)	細谷市佐衛門	33.5×181	
4	鯛・袴図(押絵)		今泉タケ 他7名	63.5×91.5		
5	小絵馬					
	御神酒徳利 … 26					
	重ね餅 …… 18					
	向い狐 …… 18					
	男子拝み …… 1					
	一匹狐 …… 2					
	鳥居 …… 4					
	馬 …… 1					
	め …… 1					
	不明 …… 10					
	(合計81枚)					

2 砥上神社

・ 下砥上町

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	右大臣図	維時八十歳 植木喜代七	明治45年4月13日 (1912)		172×31	
2	左大臣図		同上			

3 薬師堂

・ 鷺の谷町 236

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	小絵馬					
	め …… 11					
	向いめ …… 3					
	御神酒徳利 … 2					
	虎 …… 4					
	不明 …… 7					
	(合計27枚)					

4 星宮神社

• 西川田町 1393

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	天の岩戸図		明治44年3月 (1911)	妙法信者一同	60×122	

◎ 雀宮地区

1 雀宮神社

• 雀の宮1丁目

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考	
1	素盞鳴命大蛇退治図	愛山菊地 典古	明治8年9月 (1875)	橋川藤吉 他4名	119×178	ガラス張	
2	親子拝み図			宇都宮市 芦谷孝	45×58		
3	夫婦拝み図			雀宮 田崎新一	35.5×45.5		
4	婦人拝み図			橋本ヤス	25.5×34.5		
5	男子拝み図	東洋	大正9年 (1920)	千瓢商 高橋徳太郎	47.5×74.5		
6	幣束・御神酒徳利図 (刺繍)			明治39年旧9月9日 (1906)	雀宮 篠崎関子		48×40
7	武術(弓道)			明治35年2月吉日 (1902)	日置流印西派 稲葉謙一郎 他38名		62.5×93

2 高麗神社

• 茂原町 1078

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	那須与一図	菁邨	昭和4年旧正月20日 (1929)	茂原當所 寺内四郎右エ門		

3 八幡神社

• 針ヶ谷町 880

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	鞍馬山の牛若丸図		明治□年旧6月□日	姿川村字舞田 石川ます	26.5×34.5	
2	婦人拝み図			坪□□阿部清之助		
3	婦人拝み図			河内郡雀宮村針ヶ谷 阿部リノ	36.5×60.5	
4	鳥居(絵の古銭)		大正8年旧8月15日 (1919)	雀宮村字針谷字中 原田キク	32×45	

4 熊野神社

・針ヶ谷町 1217

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	家族拝み図		大正2年9月28日 (1913)	当坪 菊地金蔵	48.5×76	
2	竹刀に巻物図			河内郡雀宮村 山口金三郎	60×90	券物に直心影流・真 心武蔵流とあり

5 中島神社

・中島町 814

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	天の岩戸図		明治13年10月15日 (1880)	當所 尾島彌平	60.5×94	
2	小絵馬 御神酒徳利 … 4 重ね餅 …… 4 馬 …… 1 拝み …… 1 (合計10枚)					

6 観音堂

・茂原町 445

NO	絵馬の内容	作者等	奉納年月日	奉納者	法量	備考
1	間引き図	法眼祐真 藤原梅景	天保14年10月 (1843)	寺内四郎右衛門	69×85	
2	勿来関図	七十九翁愛山	明治30年 (1897)	當所 寺内喜一郎	53×48	裏面に墨書あり
3	悲母観音像	齋邨	昭和4年11月28日 (1929)	茂原當所 寺内四郎右衛門	75×124	
4	家族拝み図		明治23年3月24日 (1890)	下都賀郡細谷村 手塚亀三郎	55×67	
5	金剛力士像(阿形)	紫泉	大正11年3月18日 (1922)	當所 寺内弥太郎	93×43	裏面 大工當字 寺内留吉
6	源頼光・花園中納言 の娘図		明治22年10月7日 (1889)	河内郡雀宮村大字雀宮 橋本徳次	62×94	
7	神功皇后図		文久2年7月 (1862)	當所 寺内氏	51.5×76	
8	群馬図		文政2年正月吉日 (1819)	下新田村 増河一光	61×110	顔料剥落甚し
9	神功皇后図		文政11年2月吉日 (1828)	不明	71.5×97	々
10	宿場繁栄図				124×182	々
11	男子拝み図		大正2年1月18日 (1913)	針ヶ谷 阿部末重郎	48×63	
12	馬参詣図		明治15年5月吉日 (1882)	手塚舎茂原世話人 寺内ミツ	49×76	

13	夫婦拝み図		明治32年 (1899)	大字茂原 寺内半治	39×49	
14	群馬図	丸山謹書	大正2年正月18日 (1913)	山崎善次郎高武	58.5×87.5	
15	楊柳観音図(紙本)				64×54	印刷着色ガラス張
16	高砂図(押絵)			當所 寺内タイ	34×43	ガラス張
17	馬図(彩色)				34×43	ガラス張
18	馬図(鉛筆画)				37.5×48	ガラス張
19	小絵馬					
	重ね餅 …………… 11					
	御神酒徳利 …… 7					
	拝み …………… 1					
	鶏 …………… 1					
	馬 …………… 1					
	(合計21枚)					

2. 年代別絵馬一覧

1810～1819(1枚)	
1810(文化7)	
'11(◇8)	
'12(◇9)	
'13(◇10)	
'14(◇11)	
'15(◇12)	
'16(◇13)	
'17(◇14)	
'18(文政1)	◦群馬図〈観音堂・茂原町〉
'19(◇2)	

1820～1829(3枚)	
1820(文政3)	
'21(◇4)	
'22(◇5)	
'23(◇6)	
'24(◇7)	
'25(◇8)	
'26(◇9)	◦間引き図〈稻荷神社・兵庫塚町〉
'27(◇10)	
'28(◇11)	◦神功皇后図〈観音堂・茂原町〉
'29(◇12)	◦雲竜図〈大谷寺・大谷町〉

1830～1839(1枚)	
1830(天保1)	
'31(◇2)	
'32(◇3)	
'33(◇4)	
'34(◇5)	◦力士土俵入り図〈太子堂・下平出町〉
'35(◇6)	
'36(◇7)	
'37(◇8)	
'38(◇9)	
'39(◇10)	

1840~1849(2 枚)	
1840(天保11)	
'41(/ 12)	
'42(/ 13)	
'43(/ 14)	◦ 間引き図〈観音堂・茂原町〉
'44(弘化1)	
'45(/ 2)	◦ 俳句額〈稻荷神社・兵庫塚町〉
'46(/ 3)	
'47(/ 4)	
'48(嘉永1)	
'49(/ 2)	

1850~1859(1 枚)	
1850(嘉永3)	
'51(/ 4)	
'52(/ 5)	
'53(/ 6)	
'54(安政1)	
'55(/ 2)	
'56(/ 3)	
'57(/ 4)	◦ 近江八景図〈平出神社・平出町〉
'58(/ 5)	
'59(/ 6)	

1860~1869(4 枚)	
1860(万延1)	
'61(文久1)	
'62(/ 2)	◦ 太々神楽奉納図〈高轟神社・上桑島町〉。参詣図、子供拝み図、母子拝み図〈羽下薬師堂・下荒針町〉。神功皇后図〈観音堂・茂原町〉
'63(/ 3)	
'64(元治1)	
'65(慶応1)	
'66(/ 2)	
'67(/ 3)	
'68(/ 4)	
(明治1)	
'69(/ 2)	

1870～1879 (5枚)	
1870(明治3)	
'71(4)	
'72(5)	
'73(6)	
'74(7)	
'75(8)	◦俳句額〈菅原神社・天神町〉。神楽奉納図〈平野神社・瓦谷町〉。素盞鳴命大蛇退治図〈雀宮神社・雀の宮1丁目〉
'76(9)	
'77(10)	
'78(11)	
'79(12)	◦神楽奉納図〈高籠神社・石井町〉。神社全景図〈平出神社・平出町〉
1880～1889 (7枚)	
1880(明治13)	◦天の岩戸図〈中島神社・中島町〉
'81(14)	
'82(15)	◦馬参詣図〈観音堂・茂原町〉
'83(16)	◦岩戸神楽図〈琴平神社・清住1丁目〉
'84(17)	
'85(18)	
'86(19)	
'87(20)	◦神社境内図〈高籠神社・岩曾町〉。参詣図〈羽下薬師堂・下荒針町〉
'88(21)	
'89(22)	◦横笛上達祈願(星宮神社・上欠町)。源頼光・花園中納言の娘図(観音堂・茂原町)
1890～1899 (14枚)	
1890(明治23)	◦天狗図(石製)〈神明宮・徳次郎町〉。家族拝み図〈観音堂・茂原町〉
'91(24)	◦針金(稲荷神社・砂田町)
'92(25)	
'93(26)	◦伊勢太々神楽図〈高籠神社・竹林町〉
'94(27)	◦負傷軍人の図〈平出神社・平出町〉
'95(28)	◦神社境内図〈高籠神社・岩曾町〉
'96(29)	◦鳥居(古銭)〈持宝院・田下町〉。農作業図〈平出神社・平出町〉
'97(30)	◦勿来関図〈観音堂・茂原町〉
'98(31)	◦夫婦雷神拝み図〈平出神社・平出町〉。文覚上人図、布袋図(稲荷神社・砂田町)
'99(32)	◦家族拝み図〈神明宮・徳次郎町〉。夫婦拝み図〈観音堂・茂原町〉

1900~1909 (10枚)	
1900(明治33)	
'1 (/ 34)	◦ 双天狗面 (琴平神社・清住1丁目) ◦ 小鍛冶図 (稲荷神社・砂田町)
	◦ 宝剣(古銭) (持宝院・田下町) ◦ 参詣図 (神明宮・徳次郎町)
'2 (/ 35)	◦ 仁徳天皇図 (神明宮・徳次郎町) ◦ 武術(弓道) (雀宮神社・雀の宮1丁目)
'3 (/ 36)	◦ 俳句額 (高麗神社・東刑部町)
'4 (/ 37)	
'5 (/ 38)	
'6 (/ 39)	◦ 御神酒徳利・幣束図(刺繍) (雀宮神社・雀の宮1丁目)
'7 (/ 40)	◦ 天神図 (菅原神社・さるやま町)
'8 (/ 41)	◦ 天の岩戸図 (塩釜稲荷神社・南一の沢町)
'9 (/ 42)	

1910~1919 (18枚)	
1910(明治43)	
'11 (/ 44)	
'12 (/ 45)	◦ 右大臣図、左大臣図 (砥上神社・下砥上町)
(大正1)	
'13 (/ 2)	◦ 猫と雷図、蜘蛛に親子猫図 (平出神社・平出町) ◦ 鯛・袴図(押絵)
	(稲荷神社・兵庫塚町) ◦ 家族拝み図 (熊野神社・針ヶ谷町) ◦ 男子拝み図
	、群馬図 (観音堂・茂原町)
'14 (/ 3)	
'15 (/ 4)	◦ 楠木公父子訣別図 (神明宮・徳次郎町)
'16 (/ 5)	◦ 大工三神図(二荒山神社・馬場通り1丁目) ◦ 絵馬奉納図(太子堂・下平出町)
'17 (/ 6)	◦ 宝剣(古銭)、群雀図(5羽) (平出神社・平出町) ◦ 謡曲奏楽図
	(宝国神社・宝木本町)
'18 (/ 7)	◦ 宝剣(古銭) (持宝院・田下町)
'19 (/ 8)	◦ 神門新始式の図 (二荒山神社・馬場通り1丁目) ◦ 武者(献上)図
	(平出神社・平出町) ◦ 鳥居(絵の古銭) (八幡神社・針ヶ谷町)

1920~1929 (16枚)	
1920(大正9)	◦ 雲龍図、柄鏡貼付 (鶏峯神社・峰町) ◦ 男子拝み図 (雀宮神社・雀宮1丁目)
'21 (/ 10)	◦ 男舞図(紙本・印刷) (平出神社・平出町)
'22 (/ 11)	◦ 川柳聯句額 (一向寺・西原町) ◦ 金剛力士像(阿形) (観音堂・茂原町)
'23 (/ 12)	
'24 (/ 13)	◦ 神楽奉納図、男拝み図 (高麗神社・石井町) ◦ 騎竜弁財天図
	(岩原神社・岩原町) ◦ 宝剣(鑄鉄) (持宝院・田下町)

'25(〳 14)	
'26(〳 15) (昭和1)	
'27(〳 2)	◦薬師堂風景(拝み)図〈羽下薬師堂・下荒針町〉。不動明王両脇侍図(紙本)〈持宝院・田下町〉
'28(〳 3)	◦母子拝み図〈菅原神社・さるやま町〉
'29(〳 4)	◦梅花美人図〈二荒山神社・馬場通り1丁目〉。那須与一図、〈高麗神社・茂原町〉。悲母親音像図〈観音堂・茂原町〉

1930~1939 (11枚)	
1930(昭和5)	◦宝剣(鉄製)〈持宝院・田下町〉
'31(〳 6)	◦宝剣(鉄製)〈持宝院・田下町〉
'32(〳 7)	◦雷神図〈平出神社・平出町〉。親子拝み図〈神明宮・徳次郎町〉
'33(〳 8)	◦鳥居図(古銭)〈神明宮・徳次郎町〉
'34(〳 9)	◦鶏圖〈鶏峯神社・峰町〉。菅公図〈菅原神社・さるやま町〉
'35(〳 10)	◦直実・敦盛図〈菅原神社・台新田1丁目〉
'36(〳 11)	◦馬図〈猿山神社・下栗町〉
'37(〳 12)	◦神楽奉納図〈高籠神社・石井町〉
'38(〳 13)	
'39(〳 14)	◦風神図〈持宝院・田下町〉

1940~1949 (3枚)	
1940(昭和15)	◦宝剣(彫刻)〈持宝院・田下町〉
'41(〳 16)	◦陸軍軍人図〈平出神社・平出町〉
'42(〳 17)	
'43(〳 18)	◦馬図(紙本)〈平出神社・平出町〉
'44(〳 19)	
'45(〳 20)	
'46(〳 21)	
'47(〳 22)	
'48(〳 23)	
'49(〳 24)	

1950～1959 (1 枚)	
1950(昭和25)	
'51(/ 26)	
'52(/ 27)	
'53(/ 28)	
'54(/ 29)	
'55(/ 30)	
'56(/ 31)	
'57(/ 32)	
'58(/ 33)	◦ 鶏図 (鶏峯神社・峰町)
'59(/ 34)	

1960～1969 (4 枚)	
1960(昭和35)	
'61(/ 36)	◦ 宝剣(ブリキ製) (持宝院・田下町)
'62(/ 37)	
'63(/ 38)	
'64(/ 39)	
'65(/ 40)	
'66(/ 41)	◦ 鶏図 (3 枚) (鶏峯神社・峰町)
'67(/ 42)	
'68(/ 43)	
'69(/ 44)	

1970～1979 (なし)

1980～ (3 枚)	
'80(昭和55)	◦ 双天狗面 (鶏峯神社・峰町) ◦ 小絵馬 (御神酒徳利) (菅原神社・天神2丁目)
'81(/ 56)	◦ 昇龍図(変木) (庚申神社・下平出町)
'82(/ 57)	
'83(/ 58)	
'84(/ 59)	
'85(/ 60)	
'86(/ 61)	
'87(/ 62)	

あとがき

今回文化財シリーズ第9号として「宇都宮の絵馬」を、関係者の方々の御指導・御協力により発刊することができました。厚く御礼申し上げます。

わたしたちは「文化財」という言葉を聞くと、立派な建物や仏像などを考えてしまい、身近かな位置にあたり生活に密着したものであったりするものにはあまり目を向けようとはしません。今回調査しました「絵馬」も近くの神社や寺院・堂宇に行けば比較的普通にみられますし、また数も多くあるなどの理由で、「大切に守ろう」という意識に欠けることがあります。しかし生活に密着していた絵馬だからこそ、奉納された当時の人々の願いや感謝の心、風俗の一端を知ることができるのです。

絵馬の調査研究につきましては、既に栃木県立博物館をはじめとする多くの方々によりその成果が発表されております。今回の調査においてそれらの成果をふまえながら、文化財調査員活動の一環として、調査・編集をしていきました。この点においては、可能な限り事実の把握に努めたつもりですが、調査もれや不十分な点、意をつくせなかった点などが多々あることは否めません。今後も調査を行い、更によいものにして思うておりますので、今後とも関係各位の御指導の程心よりお願い申し上げます。

なお神社や寺院・堂宇などにある絵馬を処分しようと思っておられる方がいましたら当委員会社会教育課まで御一報いただければ幸いです。また建物の中にある絵馬を見る場合には、必ず管理者の許可を得てからにして下さい。

最後になりましたが、本冊子が多くの人々の目にとまり、活用されることにより、絵馬という文化財を見直す一助となれば、編集に携わった者として喜びに堪えません。

昭和62年6月

編集責任者

宇都宮市教育委員会

社会教育課長 塚田 隆一

参考文献

「小絵馬」	岩井宏實	三彩社	昭和41年
「とちぎの絵馬」	栃木県立博物館		昭和60年
「絵馬に託した願い」	小山市立博物館		昭和59年
「流山の絵馬と額」	流山市立博物館		昭和61年
「絵馬にみる 日本常民生活史の研究」	岩井宏實 他	国立歴史民俗学研究中心	昭和59年
「絵馬」	岩井宏實	法政大学出版会	昭和59年
「鐔・小道具画題事典」	沼田鎌次	雄山閣	昭和49年
「日本民俗学事典」	民俗学研究所編	東京堂	昭和26年
「民俗探訪事典」		山川出版社	昭和58年
「歴史散歩事典」		山川出版社	昭和54年
「間引き図をめぐる」	久野俊彦	絵解き研レジュメ	昭和62年

文化財愛護シンボルマークについて



このマークは文化財愛護運動の一環として昭和41年5月に定められたもので、ひろげた両方の手のひらのパターンによって日本建築の重要な要素である斗拱のイメージを表わし、これを三つ重ねることにより文化財という民族の遺産を過去・現在・未来へと永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

昭和62年6月25日発行

平成6年3月31日再版

宇都宮の絵馬

発行 宇都宮市教育委員会

編集 宇都宮市教育委員会社会教育課

表紙題字 桜井敬朗

印刷所 (株)松井ビ・テ・オ・印刷

